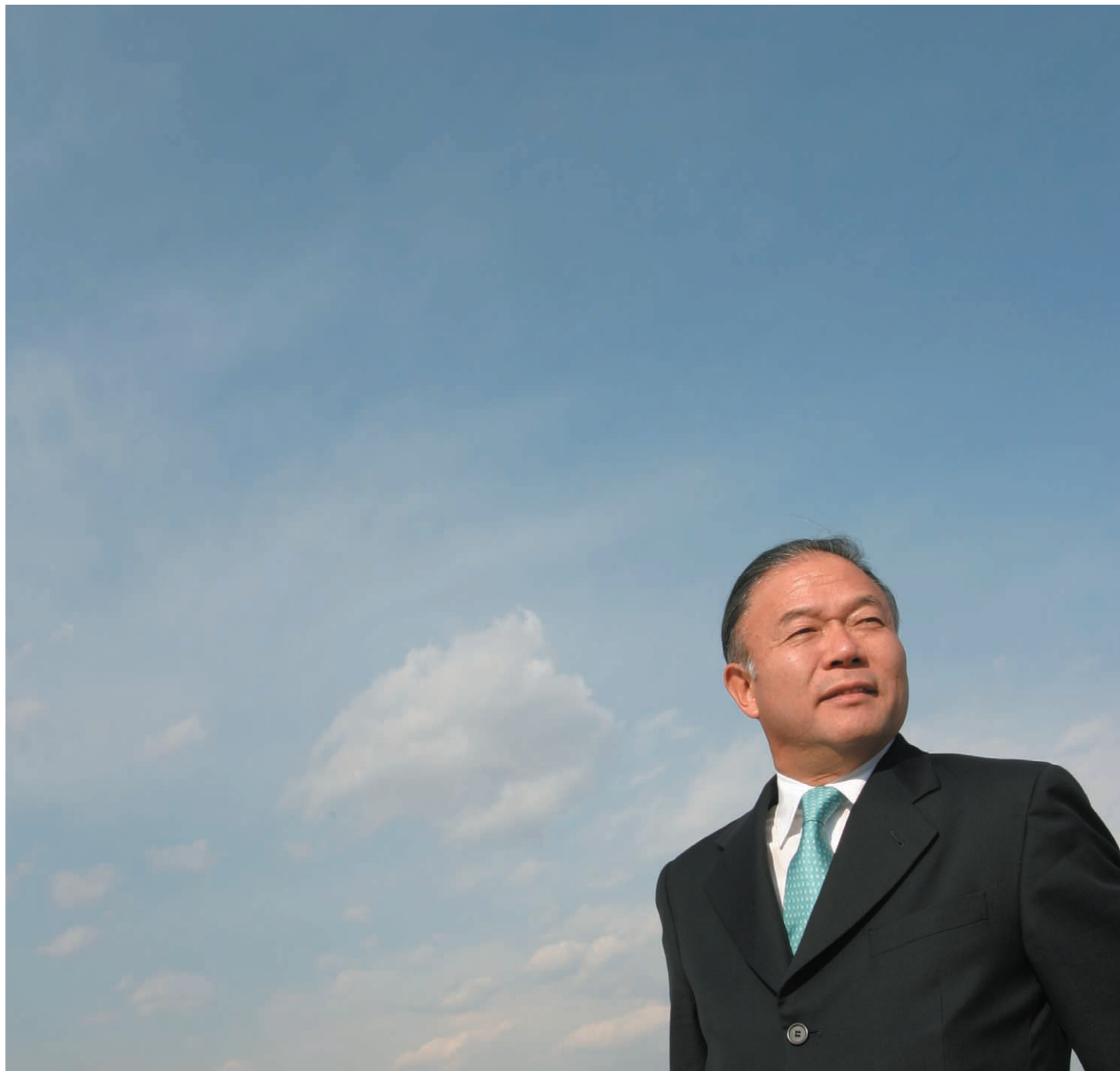


世界をつなぐ、世界をつつむ

YKKグループ環境・社会報告書2005

人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指して





YKKグループ経営理念 : 更なるCORPORATE VALUEを求めて

YKKグループの経営理念は、7つのキーワードでその基本的な考え方を表現しています。お客様に喜ばれ、社員は誇りと喜びを持ち、社会にも評価される会社。「顧客」「社員」「社会」。その目標に近づく手段として「商品」「技術」「経営」というキーワードを掲げています。

これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、価値観や慣習が異なる中での経営判断をしてゆくための基準となります。

YKKグループは、更なるCorporate Value (企業価値) を求めて、7つの分野に新たなQuality (質) を追求します。

そして、これからも今まで以上に「安心してお付き合い頂ける会社」「真に国際的な会社」「新たな価値を創造する技術の会社」として認知していただける企業を目指します。



世の中に必要とされる企業でありつづけるために。

YKKグループが手がける「ファスニング」と「建材」は、暮らしの基盤である「衣」と「住」に直接関わっています。私たちの仕事は、生活に密着しているのです。これまでYKKグループの70年にもおよぶ歴史のなかで、大切にしてきたもの。脈々と受け継いできたもの。突き詰めていけば、それは「モノづくりへのチャレンジ」です。

事業価値とは、マーケットや顧客の求めるものにきちっと対応して初めて認められるものと考えます。その要求は時代時代で異なりますし、国や年齢層によっても異なりますから、的確にフォローもしくは先取りする形で事業展開していかなければなりません。

YKKグループが提供するプロダクトは、人にも地球にも優しく、誰にも受け入れられるものでありたいと思っています。それには、強さだけでなく、優しさや美しさといった要素も必要とされます。力と美、そしてそれを支える技術が合体することで新たなモノづくりへのチャレンジを推進してまいります。

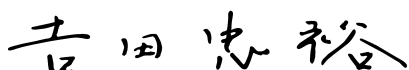
環境経営。それは、この地球で事業を営む上での責任です。

YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。事業活動のすべての分野において、商品の設計から製造・廃棄・回収・リサイクルに至るまでのあらゆる段階で環境政策を推進することにより、環境経営体制を確立し、循環型経済社会の構築に貢献してまいります。

今年2月には京都議定書が発効され、温室効果ガスの排出量削減が国ごとに法的拘束力のある数量化された約束が定められました。YKKグループは地球温暖化を地球規模の問題ととらえ、途上国も含めたグループ全体で対策を講じてまいります。

これからも、皆様からよりいっそうの信頼を得られるよう事業価値の更なる向上に努めていく所存であります。皆様の忌憚のないご意見・ご指摘をいただければ幸いです。

2005年7月

YKKグループ代表 



目 次

トップメッセージ	02
YKKグループ精神	04
YKKグループの事業領域と社会とのかかわり	05
社会貢献活動(海外)	07
(国内)	10
社会に貢献する商品・サービスの提案	11
お客様とのかかわり(品質保証)	13
(情報公開)	14
従業員とのかかわり(人事)	15
(安全衛生・健康)	17
YKKグループの事業と環境とのかかわり	20
環境行動目標と実績	21
グリーンマーケットへの対応と貢献	23
環境負荷低減経営(地球温暖化防止)	25
(ゼロ・エミッション)	26
(環境リスクマネジメント)	27
(土壌調査)	29
研究開発センターの環境・社会貢献活動	30
データ編(基本指標、人事・安全衛生・健康)	31
(潜在リスクと予防)	33
(ISO14001、環境会計)	34
(エネルギー、廃棄物)	35
(大気・水質汚染)	36
(PRTR、地下水調査)	37
(土壌調査)	38
(サイト別環境負荷量)	39
第三者意見	41
YKKグループの概要	42

報告書について

この報告書は2004年度(2004年4月1日から2005年3月31日)の活動を中心にYKKグループの環境、社会への取り組みを掲載しています。構成は社会編・環境編にYKKグループの国内外の具体的な取り組み内容を記載しました。また、データ編としてYKKグループ国内の項目別の環境負荷データならびに国内外の主要サイトの環境負荷データを記載しました。

YKKグループでは2000年から環境報告書を発行しており、今回で6回目となります。

今後の社会活動、環境保全活動や報告書の改善に皆様のご意見を反映したく、巻末にアンケートを入れておりますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。

次回発行は2006年7月を予定しています。

本報告書のYKKグループの範囲

- ・YKK株式会社 製造・開発・営業
- ・YKK AP株式会社 製造・開発・営業
- ・その他国内グループ会社
- ・海外主要生産拠点 (ISO14001認証取得済み事業所)

YKKグループがこれまで発展を続けてきた源。
そこには「善の巡環」という揺るぎない精神があります。

他人の利益を図らずして、自らの繁栄はない。私たちはこれを「善の巡環」と名付けて創業以来、信念を貫き、事業を営んでいます。絶えず創意工夫に努め、世の中に新しい価値をもたらさなければならぬ。それが巡り巡って私たちのもとに還ってくる。この事業哲学を世界に拡げていくことで、ここまで大きく成長を遂げてきました。

私たちYKKグループが常に共有する考え方。
たとえば、

「失敗しても成功せよ」：失敗してもいいのです。高い目標を掲げてチャレンジすれば、必ず失敗はついてくる。より品質に優れたファスナーを生み出すために、それまで海外製に依存していた生産機械を自ら開発しようとした時もそうでした。絶望的な失敗を繰り返しながら、それでもあきらめずに挑戦し続けた結果、YKKのモノづくりが一気に進化したのです。大切なのは、自らを信じてチャレンジし続けること。最後に結果が出ればいい。失敗しても成功せよ。YKKグループに脈々と受け継がれている精神です。

「土地っ子になれ」：私たちは海外に進出する時、現地の安い人件費を利用してコストダウンを図ろうという発想はありません。その国に根付き、現地のマーケットに応じた事業に知恵を絞り、ビジネスを伸ばしていく。得られた利益は現地に還元する。そしてさらなる成長を果たすために、現地の優秀な人材に選んでいただけるような企業を目指す。まさに「土地っ子」になるのです。

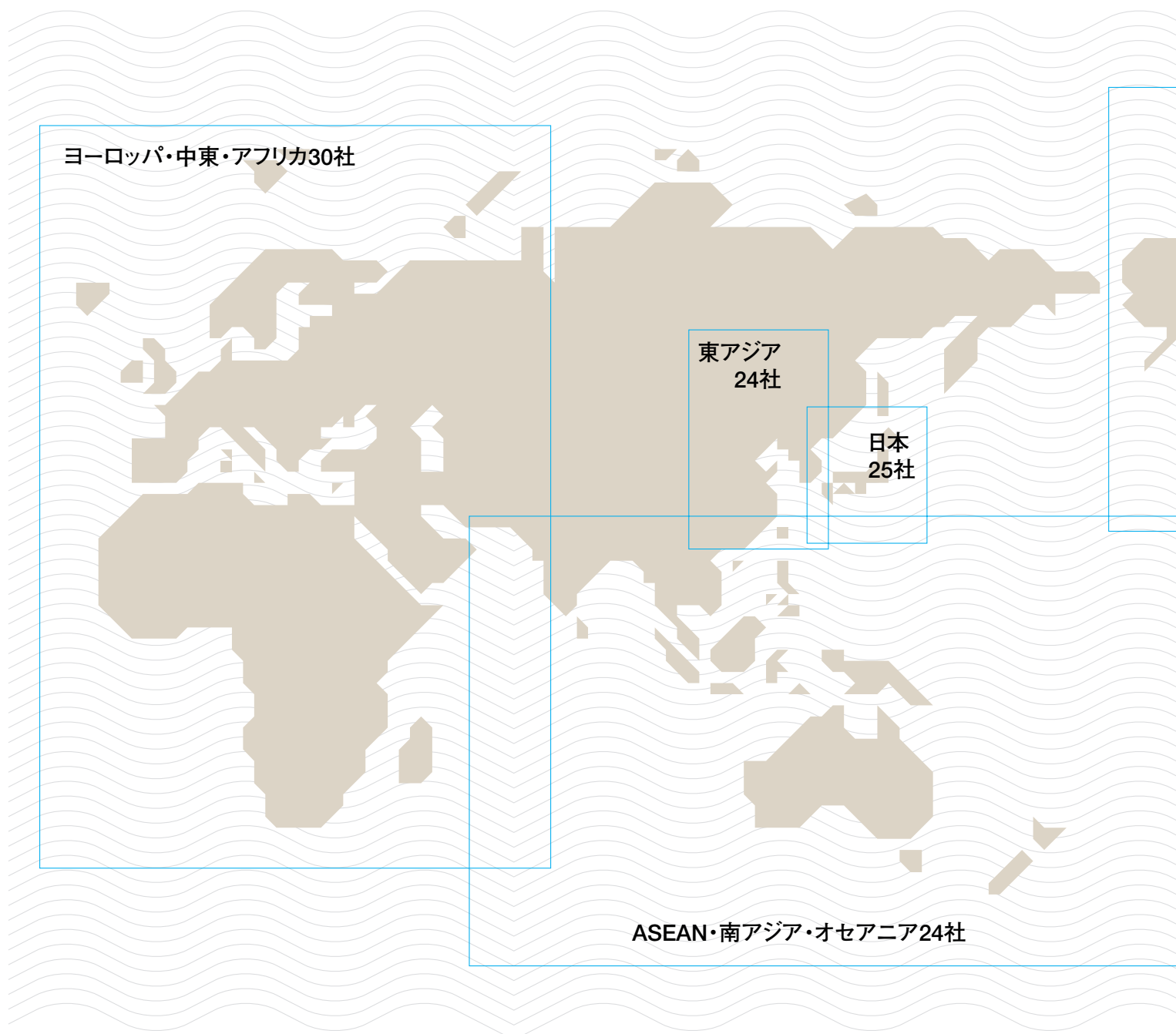
「川上遡上主義」：YKKグループの歴史は、「より優れた製品を世の中に送り出したい」という熱い気持ちの積み重ねでした。製造機械を自社開発したのもそう。金型まで自ら手がけるようになったこともそう。そして、さらには素材や原材料の開発まで…品質や生産性を、自ら理想に掲げるレベルまで向上させるためには、製品から原材料まで、すなわち川上まで遡ってすべてを手がけなければ、到底果たすことはできない。そのための投資は惜しまない。このこだわりこそ、YKKグループのモノづくりの強さの源泉なのです。

「野戦の一刀流」：理論や定石を学ぶことは大切です。しかし机上の知恵だけでは、いざ壁にぶつかった時、それを突き破るような創意工夫は生まれません。道場の剣法ではなく、どんなときにも臨機応変に対応できる野戦で鍛えた一刀流の達人になること。それがYKKグループの人材観です。実戦の中でさまざまな経験を重ねれば、そこから真に活きた知恵が生まれてくる。常識にとらわれない問題解決法は、「野戦」の中から生まれてくる。YKKグループが若いうちから大きな仕事を任せるのは、そんな思想があるからなのです。

人に愛され、地域に愛され、社会に愛される企業でありつづけるために。

YKKグループは、1959年の海外進出当初から、従業員の雇用、原材料調達、商品の販売から利益還元まで、徹底した現地主義を採用し、地域社会の一員として事業活動を推進しています。

また、教育や地域の活性化、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動にも積極的に取り組んでいます。



世界70カ国/地域 123社
(国内25社、海外98社)

グローバルな事業展開におけるYKKグループの原則

YKKグループは、半世紀近くも前から国際化を推進してきた企業です。海外で最も成功した日本企業のひとつに挙げられています。文化や言葉の壁を乗り越えて今日の成功を築き上げた背景には、海外進出におけるYKKグループならではの原則を貫いてきたことがあります。

第一の原則は「現地主義」。現地での利益は現地に還元。現地で人材を雇用、育成、登用し、企業の運営も委ねる。だからこそ各国に受け入れられてきました。

第二の原則は、世界レベルでの「品質至上主義」。YKKグループの完全一貫生産体制は日本国内に限ったものではなく、海外に現地工場を建設する際にも、モノづくりの「システム」ごと移植しています。世界中のどこでも同じ高品質の製品を生産・供給できることがYKKグループの大きな強みなのです。

そして第三の原則は「世界的視点に立った環境問題対応」。ボーダーレスな現代社会の環境問題への対応には、グループ全域での同一方針・同一行動が必須です。各地域ごとの課題を把握し、解決に向けて取り組むとともに、対策を全域にフィードバックし水平展開を図ることで、グループ全体の環境課題対応能力を高めています。

YKKグループ
環境政策委員会委員長
YKK(株)代表取締役副会長
田家 清



北中米14社

南米6社

YKKグループは、徹底した現地主義を採用し、地域社会の一員として事業活動を推進し、地域の活性化や教育、そして国際交流のバックアップなど、さまざまな活動にも積極的に取り組んでいます。



水支援

YKK台湾社 2004年9月11日の台風により、台湾の桃園県中壢市は約2週間の断水となりました。そこで、工場周辺の住民へ水の供給を支援しました。これにより、桃園県県長から感謝状をいただきました。



地域医療支援

YKKフィリピン社 1999年から毎年、工場近隣地域の住民に対し、無料の健康診断を実施しています。そして必要に応じ治療や薬の投与も実施しています。開始当初は270名ほどの方が受診されましたが、現在では650名と多くの方が受診しています。



募金活動

YKK深圳社 2004年12月のインドネシアマトラ沖地震の被害に対し、従業員による募金活動を行いました。寄付者は457名で7791.50元を、宝安区政府を通して災害国に寄付しました。



公園清掃

YKKシンガポール社 2004年11月27日にシンガポール西部の公園 (WEST COAST PARK) にて清掃ボランティア活動を行いました。従業員の家族も参加し、揃いのTシャツを着て、チーム別に小グループをつくり、ゴミ集め重量計測コンテストといった具合にゲーム形式にて楽しみながら行われました。



美化活動

YKKインドネシア社 毎週木曜日の就業開始時に約15分、全従業員による工業団地内の早朝清掃を行っています。この活動は、全従業員にもっと環境に関心を持ってもらうため、「いつも清潔な環境づくり」をモットーに2004年初頭からこの活動を開始しました。今はまだ社内活動にすぎませんが、やがてはこの活動の輪が家族へ、そして従業員が住む地域社会へと広がっていく事を期待します。



メーコン市桜祭り支援、協力

YKK U.S.A.社 アメリカのジョージア州メーコン市では、1973年から街の美化運動の一環として桜の植樹運動が行われており、1983年からこの桜の美しさを祝う桜祭りが開催されています。桜祭りは現在期間中に約500のイベントが開催され、約60万人が訪れる北米のイベント・トップ100に数えられるようになりました。YKK U.S.A.社は、桜祭り本部の建物を寄贈するなど桜祭りを継続的に支援し、地域社会に対する貢献を行っています。



奨学金制度

YKKオランダ社 1982年にスネーク市に財団法人YKK基金を設立しました。これは人類学、経済学、舞踏など様々な専門分野から学者と大学院生の日本への留学を促進することを主目的とした奨学金制度です。この制度を使い今までに、7人の留学生在が日本へ派遣されています。



環境学習

YKKインド社 地域社会に貢献するという観点から、工場近隣の中学校、高校の先生、生徒を招待し、工場見学を実施しています。環境担当者による環境問題の講義に引き続き、廃棄物の分別、5S、排水処理の仕組みなどインド社の環境への取組みを生徒達に分かり易く説明しました。



施設ボランティア

YKK韓国社 2004年11月に児童養護施設のペイント作業、施設内部の掃除、子ども達の風呂の世話などのボランティア活動を行いました。その後毎月1回、児童養護施設を訪問して施設内部の掃除や子ども達との遊び時間を持っています。



パソコンの寄付

YKKインドネシア社 使用していたパソコンの入替えに伴い、地元チビトン地区の6つの小学校に、パソコン14台を寄付しました。また、従業員によるパソコン指導も行いました。これは、従業員の提案によるもので、インドネシアの教育レベルの向上に少しでも貢献できればという思いが込められています。



地元への教育支援

YKKトルコ社 地元のチェルケスキョイ市の小学校が、パソコン教室を開設するにあたり、パソコンや机などを寄付しました。2004年10月に行われたオープニング式典では、チェルケスキョイ市長も出席し「企業が地元の学校に貢献してくれるのは、非常に意義深いことだ。これがよいモデルになっていくだろう」と述べられYKKへの感謝の意を表しました。



姉妹都市交流支援

YKK APアメリカ社 アメリカのダブリン市に進出した時、新規操業のために多くの現地従業員がYKK APの東北工場(宮城県三本木町)で研修を行いました。そのことから交流が始まり1998年に姉妹都市提携が結ばれました。それ以来、三本木町とダブリン市では毎年相互に中学・高校生を対象としたホームステイを行っており、YKK APの従業員もホストファミリーとして参加しています。

社会貢献活動(海外)



植樹活動の提案

YKKブラジル社 環境保全活動の一環として、工場周辺地域にあるソロカバ川流域への緑化活動を市当局に提案し、苗木の植樹を行いました。これは単なる記念植樹ではなく、植樹後3年間の生育義務を自らに課して定期的に手入れを行っており、スクスクと育っています。



砂漠緑化事業協力

YKKエジプト社 エジプトにおける緑化活動は政府も積極的に推進し、現在政府指定の緑化活動推進地区として、9地区(11,680km²)が計画に掲げられています。この活動には、日本を始め多くの欧米諸国も活動に参加しています。その中でもYKKエジプト社はエジプトでも数少ない企業単位での活動を行っており、全従業員による植樹を実施しています。



植樹活動への参加

YKK深圳社 2004年6月5日の「世界環境デー」に、深圳市緑化委員会は、深圳紅樹林海滨公園にて植樹活動を開催しました。YKK深圳社も37人を組織し、この活動に参加しました。今回の活動を通して全従業員の環境保護意識の向上が図られました。



ジョージア州環境保護ブルーリボン賞受賞

YKK U.S.A.社 ジョージア州環境保護・汚染防止課は、パートナーシッププログラム(企業の環境活動評価)による、環境優良企業を表彰しています。YKK U.S.A.社は、環境マネジメントシステムの実行、州の各種規則の遵守、地域内での環境活動、グリーン調達プログラム開始、他企業への助言、更なる環境活動に対して当局との協力関係などが評価され、この表彰の最高位であるブルーリボン賞を受賞しました。



日米交流150周年記念外務大臣賞受賞

YCA社 日米間の交流は、1853年7月8日のペリー提督の浦賀来航と翌年3月31日の日米親善条約の調印から本格的に始まり、2003年と2004年がその150周年にあたります。外務省はこれを記念して、日米交流の推進に顕著な功績のあった日米両国の関係者に対し、外務大臣表彰を行いました。YKKコーポレーション・オブ・アメリカ(YCA)社は、ジョージア州進出後のこれまでの地域社会に対する貢献やジョージア日本人商工会における活躍などが評価され今回の受賞となりました。



ラジブ・ガンジー全国品質賞特別賞受賞

YKKインド社 ラジブ・ガンジー全国品質賞は、インド基準局が政府の承認を得て、品質重視を提唱した故ラジブ・ガンジー元首相の名前を冠して1991年に制定した、大変名誉のある賞です。品質・環境・安全のみならず、会社の経営状態や顧客へのサービス・社会貢献といった点も加味され審査されます。YKKインド社は品質・環境のマネジメントシステムを運用しており、この2つの管理システムが従業員に浸透し、その活動と実績が評価され今回の受賞となりました。



クリーン作戦

各工場では、継続的に通勤道路や公共施設周辺の清掃活動を行っています。また、黒部事業所ではこの活動が地域の方々の共感を呼び、行政、老人会や市内の商工業者も同時に参加する定例行事となっています。



組合ボランティア活動

労働組合では、地域の養護施設においてシーツ交換、窓拭き、車椅子の手入れなどを行うボランティア活動を計画しています。2004年度は各地で計19回実施しました。また、地域の清掃活動やロードレースの車椅子ランナーの補助活動などに組合員の参加を呼びかけ、多くの従業員が地域の方と支えあい、学ぶ活動を展開しています。



YKKファスニングアワード

「YKKファスニングアワード」は、ファスナー・面ファスナー・バックル・スナップ&ボタンなどの“ファスニング商品”に焦点を当てた、学生対象のユニークなファッションコンテストです。有望な新人の発掘、支援を目的とし、優秀者には賞金のほか、副賞として創作活動用の副資材を卒業まで提供します。



JSEC

「ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ 高校生“科学技術”チャレンジ」(主催:朝日新聞社 後援:文部科学省他)通称JSECは、高校生が科学技術の分野で独自性・創造性を競うコンテストです。日本の未来を担う若い世代の育成、というJSECの理念にYKKが協調し、2004年から特別協賛しています。



少年サッカー

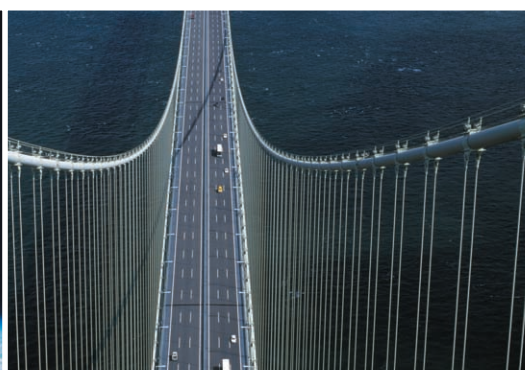
「全日本少年サッカー大会」は、日本の将来を担う少年たちのサッカーへの興味、関心を深め、さらに技術の向上と健全な心身の育成・発達を図ることを目的として1977年より毎年開催されています。YKKグループは、1980年からこの大会に協賛を行っています。全国のYKKグループの従業員が、各地での運営協議会や集い、表彰式などに参加し、各地域で交流を重ねるとともに、大会を盛りあげています。



市民福祉顕彰奨励賞

YKK六甲(株)は、神戸市より2004年度「市民福祉顕彰奨励賞」を受賞しました。この賞は神戸市が、市民福祉の向上と発展に貢献し、特にその功績が顕著な団体や個人に対して顕彰するものです。YKK六甲は神戸市初の特例子会社であることや創業以来5年間の実績ならびに障害者雇用を通しての障害者福祉への貢献が評価され今回の受賞となりました。

さまざまな分野へ商品・サービスを提供しています。



宇宙服

NASA（米国国家航空宇宙局）をはじめ宇宙プロジェクトには、YKKのファスナーが使われています。

1967年7月21日午前2時56分（日本時間）に、アポロ11号が人類ではじめて月の表面に着陸しました。その時の宇宙服には、YKKの気密ファスナー（空気を通さないファスナー）が使われていたのです。

月の表面は、一日の気温の差がとても大きく、昼間は摂氏120度まで上がり、夜にはマイナス157度にも下がります。また、宇宙空間は真空（空気がない状態）なので、宇宙服の中の空気が逃げてしまえば、人間が生きることができません。そこで、空気を通さない気密ファスナーが必要とされました。

人類にとっての大きな新紀元への一步に、YKKの技術が大きなチカラとなっていたのです。

明石海峡大橋

日本が世界に誇る、世界最大、最長の吊り橋である本州と四国を結ぶ明石海峡大橋（神戸市～淡路町）には瀬戸内海の厳しい気候条件に耐えるYKKの高い技術力で作られたファスナーが使用されています。

明石海峡大橋の排水溝の下には長さ約30mに渡って道路の伸縮に対応できるようゴム製のシートで作った「道路伸縮装置排水樋」が取り付けられています。

その樋で排水を受けることで路上のゴミなどが海に落ちないようにしています。しかし、溜まったゴミを取り除くといった定期的なメンテナンスが必要ですので、約2m間隔でYKKの水密・気密ファスナー（プロシール）を取り付け、清掃時にファスナーを開いてゴミをかき出しています。

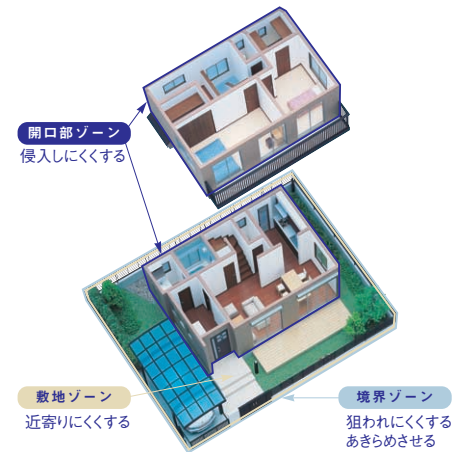
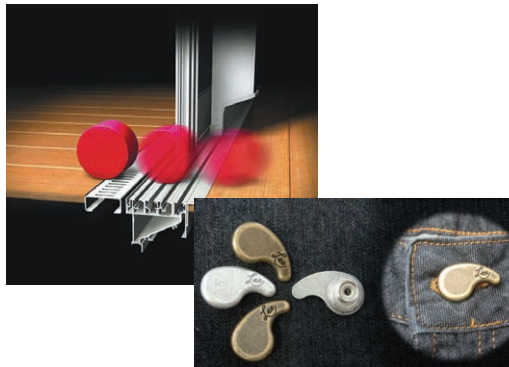
このような作業の利便性、効率性の向上が環境保全にも役立っています。

オイルフェンス

1997年の日本海における「ナホトカ号油流出事故」や、2002年の「茨城県日立港での貨物船座礁事故」など、海洋における油流出事故は後を絶ちません。また、それに伴う環境破壊や生態系への影響は計り知れないものがあります。

生態系への多大な影響を考えると、万が一の際に被害の拡散を防ぐための対策が重要です。このとき、海を危険から守り、救うのがYKKファスナーで連結したオイルフェンスです。

流出事故の現場は広い範囲に及ぶことが多く、管轄の自治体も多方面に及ぶケースがほとんどです。そこで、各自治体が所有するオイルフェンスを現場海域に持ち寄り、頑丈なファスナーで接続していきます。そうすることで、予測できない汚染の広がりへの柔軟な対応を実現することができるのです。



エマージェンシーユニット

エマージェンシーユニットは、地震などによる自然災害、紛争（戦争）などによる被災者の支援、さらに難民人口の増大を背景に、YKKのファスニング事業、建材事業で培った技術をYKK APが結集して開発した快適仮設空間ユニットです。

操作が容易なファスナーのジョイントにより、小部屋から部屋ごとに区切った連結空間まで各ユニットの連結が自由自在です。

エマージェンシーユニットは、イラク戦争時、ヨルダン難民キャンプにて医師団のテント病院として活躍しました。また、新潟中越地震では、NGO「災害人道医療支援会」（HuMA）所属の医師団を通じて、新潟県立十日町病院へ提供されました。

さらに、「エマージェンシーユニット」は、2004年10月26日に行われた、(財)日本産業デザイン振興会表彰式で、栄えある「グッドデザイン賞」を受賞しています。

ユニバーサルデザイン

モノの使いやすさは、年齢や性別、手の大きさなどによって異なります。ユニバーサルデザインとは、子供から高齢者まで、だれにでも使い勝手がいいように設計、デザインする考え方です。

YKKグループでは、あらゆる人が快適に暮らすことのできるような生活環境をつくることを目指し、商品づくりをしています。

代表的な商品として、YKK APの「R's 70FL」は、下枠に段差をなくし、スムーズに通過できる安全フラットフロアです。

ファスニング商品の「勾玉（まがたま）ボタン」は、指に力を入れづらい方、従来のボタンを留めるには負担が大きすぎる方のために指の腹を使いボタンを回転させるだけで留めることができます。また、指先を使わず留められるため、爪の長い女性にも爪に傷をつけずにお使いいただけます。

防犯

安全は当たり前、という常識が崩れています。YKK APでは、安全な住まいのために、効果的な防犯対策を提案します。

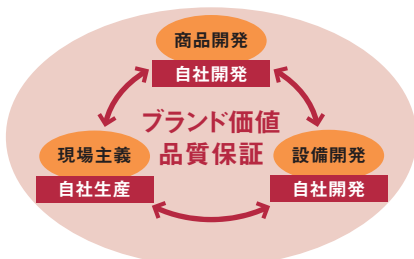
侵入盗のあらゆる経路を3つのゾーンに分けて防犯の具体策を講じています。

窓やドアなどの「開口部ゾーン」では、侵入の三大手口であるガラス破り、無締まり、ドア錠破りへの対策として電気錠やボタン錠、戸締り確認システムを設置し、侵入に要する時間を稼ぎ、ためらわせ、あきらめさせます。

「敷地ゾーン」には、外から近寄りにくくする対策としてセンサーライトやカメラなどを設置。

敷地周りの「境界ゾーン」では、非接触式キーシステムを使用した門扉・フェンスなどで狙われにくい工夫をします。

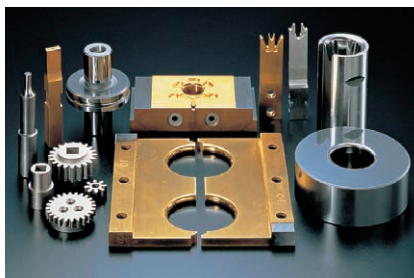
YKKグループは、お客様の声に耳を傾け、独自の発想力と確かな技術力で質の高い商品を提供しつづけ、これからの暮らしと社会に、先進の快適性をお届けする企業を目指します。



品質保証の取り組み

お客様に対する考え方:すべての生活者、消費者を評価者と位置づけ、お客様の声を「真摯」に受け止め、常にお客様の満足を最優先に行動しています。

お客様の声は、関係部署へ迅速に展開し、商品開発、品質向上など企業活動の改善に役立てています。



各種部品。金型から自らの手で製作

品質に対する考え方:お客様に最高の品質をお届けし、それを保証するために、YKKグループでは、「完全一貫生産体制」のスタイルを守りつづけています。原材料から製品化にいたるまでの全工程を自社で行い、また一般的なメーカーであれば外部から調達している生産設備の開発までも自らが手がけています。

1950年代初頭、当時アメリカからの輸入品に全面的に依存していたファスナー製造機械を自社開発したことに端を発し、以来さまざまな生産機械を考案・開発し、今では、金型からコンピュータシステムまで「製造」に関するあらゆる技術を自社で手がけています。



自社開発の世界同一ファスニングマシン

また、グローバルアカウントに対応すべく、グローバルスタンダードを目指し、「世界同一技術、同一機械、同一品質」をコンセプトに差別化された生産ラインの開発に挑戦しています。それが世界品質にふさわしいオリジナリティの創出につながっています。

PL（製造物責任）:製品に不具合が生じ、損害が発生した場合、民法のルールでは、①人的、物的損害が発生すること、②損害発生とその原因に因果関係があること、③損害発生が故意又は過失から発生すること、の3つの証明が必要でした。

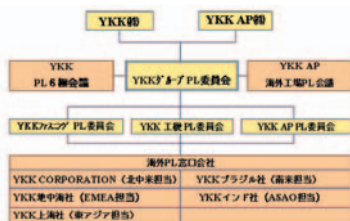
しかし、PL法（1995年7月施行）のルールでは、商品の欠陥を証明することでメーカーへ損害賠償を追及できるようになり、ユーザーがメーカーの責任を追及することが簡単になりました。

YKKグループは、企業の社会的責任として、より安全な製造物を消費者または使用者に提供することを基本方針とし、YKKグループPL委員会を設置して総合的PL対策を推進しています。

同委員会には、「YKKファスニングPL委員会」、「YKK工機PL委員会」、「YKK AP PL委員会」が設置され、海外会社と緊密なグローバル・ネットワークのもと、世界6極体制で各事業分野のPL活動を積極的に行っています。

YKKグループ社員にとってPLとは・・・

一人ひとりの業務を通して、「安全で安心してお使いいただける商品をお客さまに提供する」ことです。



YKKグループPL委員会組織



YKKグループのPL世界6極体制

YKKグループは、お客様とのコミュニケーションを充実させることで、相互理解と今後の事業活動の向上に努めていきます。

個人情報相談窓口

TEL:03-3864-2119 受付時間 平日(9:00~17:30)



個人情報保護について:YKKグループが業務上使用するお客様、取引関係者などの個人情報は、個人のプライバシーを構成する重要な情報であると考えます。個人情報保護に関連する法令などの規範を遵守し、国際的な動向にも配慮して自主的なルールおよび体制を確立し、事業者の責務として個人情報の保護に努めます。

環境社会報告書とホームページでの情報発信:2000年より毎年環境報告書を発行し、2004年からは環境・社会報告書と名称も変え、社会的活動も加えた内容で情報公開を行っています。また、ホームページに掲載することで、バックナンバーについてもダウンロードの形で情報提供をしています。

<http://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/eco/index.html>



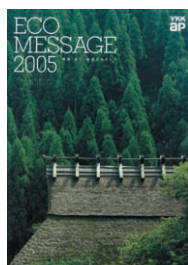
エコプロダクツ2004への出展:日本最大級の環境総合展示会「地球と私たちのためのエコスタイルフェア～エコプロダクツ2004」(主催:(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)へ、YKKグループのエコプロダクツビジョンを切り口に、社会や暮らしの中に役立つ環境配慮型商品の展示をしました。商品の省エネ性能やリサイクル性などクイズ形式で紹介し、多くのお客様にご覧いただきました。

また、小中高生にエコプロダクツが使用時にどのように環境負荷を低減させることができるかを、ツアー形式で説明しました。



中国国際住宅産業展覧会への出展:2004年7月1-4日に、中国の北京市中国国際展覧センターにて「第4回中国国際住宅産業展覧会」(主催:中華人民共和国 建設部)が開催され、YKK APは、提案から施工までの一貫品質管理体制による商品提案、供給をテーマに出展しました。

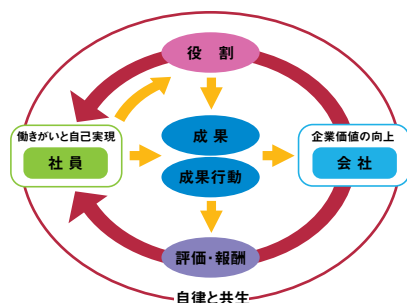
中国の北から南まで、寒冷地や温暖地に合わせたそれぞれの地域にふさわしい快適性を訴求した性能とデザインの商品群を展示するとともに、試験による品質の高さを実感していただきました。



環境ラベル「エコクローバー」商品の紹介:自己宣言型環境ラベル規格(ISO14021)に準拠した環境ラベル「クローバーマーク」に加え、従来のエコプロダクツの社内基準より一段高い評価基準を設定した、「エコクローバー」商品を紹介したパンフレット「エコ商品のご紹介」や、エコ商品情報誌「エコメッセージ」を発行しています。

YKKグループでは「自律と共生」という人事理念を定めています。一人ひとりが互いに尊重し、助け合いながら、自律的に働き、お客様や社会に、常に新たな価値を提供し続け、貢献できる会社であることを目指しています。

人事制度概念図



人事制度:「自律と共生」の理念のもと、変化の激しい環境において、一人ひとりが戦略や方針に的確に対応し、成果拡大をはかることで、更なる価値を生み出すことを支援するツールとして人事制度は作られています。

2000年度に全社員を対象として導入した成果・実力主義の人事制度では、「成果」と「成果行動（コンピテンシー）」を目標にし、上司と部下のコミュニケーションを行いながら、目標達成をはかります。評価は、公正さと納得感が得られるよう、オープンで透明性の高い仕組みとし、報酬は、働きに正当に報いることができるよう、役割をベースに評価に応じたメリハリのあるものとしています。社員の活力を引き出すツールとして人事制度が活用されるような運用に努めています。

・ビジネスプラン（管理職の評価制度）

管理職の目標設定と評価は、ビジネスプレゼンというオープンな場で行われます。

目標プレゼンでは、期待される役割の中で、今年はどのような成果目標をかかげるのか、その達成のためにどのような戦略・戦術を考え、取り組むのかという「ビジネスプラン」を自ら策定し、評価者となる上司や関連部署の責任者にプレゼンテーションを行います。評価者は、その「ビジネスプラン」が部門の戦略や方針と合っているか、レベルはどうかを確認するとともに目標達成のためのアドバイスをを行います。評価プレゼンでは、オープンで多角的な視点から公正に評価が行われます。

これらのビジネスプレゼンには同僚も同席をするため、それぞれが自己のレベルを確認でき、評価に対する納得性の向上にもつながっています。



ヨーロッパでのリーダー研修

グローバルカンパニーとしての展開:これまでのYKKグループの海外事業展開において、人事制度は、その国や地域、事業環境に合わせ構築されてきました。ここ数年、グローバル化が一段と進む中で、従来の「その土地に根付き、利益は現地に還元する」という考え方に変わりはありませんが、グローバル経営に対応できるように人事のあり方も見直しをしています。

海外会社の幹部社員に対しては、世界共通の基準・仕組みを取り入れており、世界中で優秀な人材の採用、登用や国際間のフレキシブルなキャリア開発の促進をはかっています。

チャレンジ 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ロジカルシンキング ・創造性開発 ・ビジネスコーチング ・戦略発想力
Eラーニング コース	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメント ・情報セキュリティ ・個人情報保護法

人材育成:創業時より、社員のチャレンジ精神を尊重してきました。若いうちから積極的に責任ある仕事を任せることで社員の成長を促しています。グローバルに事業を展開するYKKグループでは、活躍の場、育つ場は世界中に広がっています。これらの仕事を通じた社員の成長を支援、促進するため、様々な知識やスキルの教育を行っています。また、海外会社では、経営マネジメントの現地化を推進しており、海外ローカルスタッフの教育にも力を入れています。



新任部長研修で語る吉田社長

多様性と機会均等:国籍・年齢・性別にかかわらず、個人の意欲と能力に応じた仕事の機会と公正な評価の実現を進めています。特に、過去の慣習などから遅れていた女性の活躍推進については、積極的に取り組んでいます。女性を中心とした委員会による提言をもとに、登用のためのプログラムや働く環境の改善を行っております。ここ数年、職場責任者クラスへの登用や海外赴任などの実績もあがっているなど、女性の活躍の場は広がっており、そのための環境づくりとして、仕事と家庭の両立支援制度も充実をはかっています。また、障害者の雇用も積極的に進めており、1999年に印刷業の特例子会社であるYKK六甲(株)を設立し、障害者雇用の象徴として、グループ全体での推進をはかっています。

制度	内容
育児勤務制度	1) 短時間勤務 2) 始業・終業時間の繰り上げ・繰り下げ 3) 上記の併用 子が満3歳に達した後の4月末までのうちの1期間
子の看護休暇	年間10日まで
旧姓使用制度	法的書類以外は旧姓表示
介護休業	1) 1期間取得は1年まで 2) 分割は通算180日まで

働きやすい職場づくり:働きやすい職場づくりのために「快適ワーク推進事務局」をつくり、労働状況のモニタリングや従業員からの相談を受け付け、環境改善をはかっています。また、「健康」「心の悩み」「セクハラ」などに関して社外の専門カウンセラーが対応する相談窓口を設けています。



YKKビジネスサポート(株)
高橋 歩美

育児勤務制度利用者の声

2005年2月より職場復帰し、育児勤務制度を利用しています。「育児から離れる時間も確保しつつ、その業務は育児に影響しないもの」という精神的にも体力的にも安定した状態で勤務できる環境にとっても感謝しています。

また、限られた勤務時間の中で仕事をしていると、改めて時間の大切さを感じ効率よく仕事を進めるためにどうすべきか考え直す良い機会にもなりました。

人間尊重を経営理念とするYKKグループでは、労働災害の撲滅、健康障害の防止は、会社としての重要な役割と考えています。従業員と経営者が一体となった安全衛生協議会活動や健康診断後の適切な指導など、安全確保、健康づくりのための積極的な取り組みを行っています。

2004年度安全衛生スローガン

安全は人に頼るな 任せるな
決め手は あなたの安全意識
正しい知識で安全確保

労働災害撲滅への取り組み: YKKグループの労働災害は、長期的には減少しているものの、ここ2~3年は横ばい状態で推移しています(資料:P32参照)。

労働災害の基本的な考え方を『災害ゼロ』から『危険ゼロ』への転換をはかりエネルギーリスクアセスメントの実施と労働安全衛生マネジメントシステムの導入を進めています。YKKグループでは、人(安全衛生教育)、物(機器の本質安全化)、管理(労働安全マネジメントシステム)を通じて労働災害の減少を維持しています。



・エネルギーリスクアセスメントの推進

「危険源はすべてエネルギーを保有している」との概念から、YKKグループリスクアセスメント技法、すなわちエネルギーリスクアセスメントを考案し運用しています。

評価基準を明確にし、また頻度に関係なく年1回の作業であっても低評価、抽出漏れが出ないよう工夫したものです。

・安全衛生教育

労働災害の減少、機械の本質安全化により、危険が見えなくなり、危険源が忘れ去られ「危険を危険と感ずる心」即ち感受性の低下に繋がっています。

危険源のもつエネルギーの大きさを体感させ危険を気づかせることで、安全感を向上させることができると考え「体験・体感教育」を実施しています。



体験・体感教育—注水爆発—

・労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得 (YKK台湾社)

YKK台湾社では従業員の健康と働きやすい作業職場の形成を目的に、2004年8月にJIS HA方式適格OSHMSの認定を受けました。

2004年1月のキックオフ宣言を皮切りに、目標設定、一般従業員への説明会、労働組合への協力要請、文書・記録整備、啓蒙活動などを開始しました。さらにはヒヤリハット報告、危険予知活動、リスクアセスメントなどの台湾としては画期的な新たな活動も取り入れました。このような活動が実を結び、7月に認定審査を受け、8月に海外事業所としては初めてJISH A方式適格OSHMSの認定を受けるにいたりました。



工場内審査風景

健康保持増進への取り組み:従業員の健康は、充実した社会・職業生活を送るために欠かせない重要な要素です。その基本となる健康診断の受診率100%を目指しています(資料:P32参照)。

また、その結果にもとづき、従業員に対し二次健康診断を実施するとともに、生活習慣病・メンタルなどの疾病予防を目的とした健康教育を実施しています。



メンタルヘルスクエア冊子

・メンタルヘルスクエア

現在は、ストレスの時代といわれています。YKKグループでは、従業員のこころの健康づくりを推進しています。

従業員のこころの健康を守るためには、職場だけでなく家庭も含めて適切に対処することが大事であると考え、家族と一緒に読めるメンタルヘルスに関する冊子をグループ全従業員に配布し、こころの問題に関する正しい知識の周知を家族も含めて行っています。また、厚生労働省の提唱するラインケアを実践するため、管理者に対するメンタルヘルスクエア教育も実施しています。

・健康づくり教室

YKKグループでは、従業員一人ひとりが明るく健康に職業生活を送ることを目的に、健康保持・増進活動を積極的に推進しています。特に生活習慣病対策に力を入れ、肥満予防教室や禁煙教室などを実施しています。



肥満予防教室

肥満予防教室の参加者の声

今回参加させていただき、カロリーと運動について大変勉強になりました。毎日毎日体重のチェックを行い、太ったなあ?と思うと食生活の見直しやカロリーの消費を心がけるようになり、自分自身をコントロールできるようになりました。(50代 男性)

自分ひとりで減量にチャレンジしても、途中で甘えが出てしまい、続けるのが難しかったが、今回は「面談がある」と思うことでなんとか続けることができました。6か月で-6kgを達成できましたが、まだまだ標準体重にはほど遠いので、できれば今後もこの教室に参加できれば…と思います。(30代 女性)

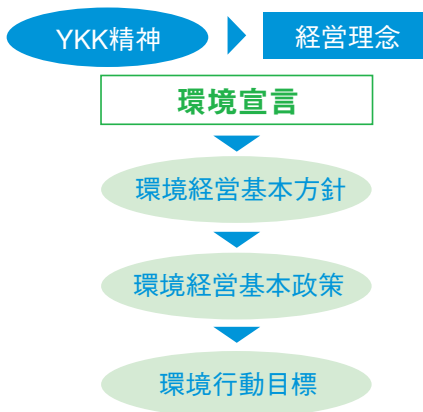
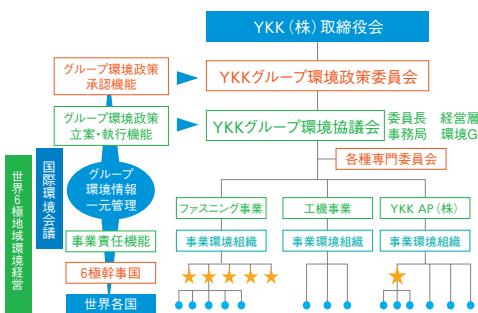
以前から何とかしないとイケないと思っていたので良い機会となりました。要点をよくおさえて分かりやすく説明してもらえて、実践しやすかったです。(20代 男性)



YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。この環境憲章は、人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指し、企業活動のすべてにわたって環境の保全・改善に向けて行動することを基本理念に掲げています。

YKKグループは、1994年9月に『YKKグループ環境憲章』を制定し、グループ全社を挙げて環境対策に取り組んでいます。この環境憲章は、人類の豊かで健康な生活と環境との調和を目指し、企業活動のすべてにわたって環境の保全・改善に向けて行動することを基本理念に掲げています。

YKKグループ環境経営体系：地球環境を守るための企業の社会的責任を明確にするため「YKK精神」に基づくグループ統合環境政策として、『環境と調和した事業活動の推進』を事業の最優先課題とすることを1994年に宣言しました。世界視点に立った環境問題対応が必須と考え、世界のあらゆる地域で同一歩調をとる世界6極地域環境経営を推進しています。

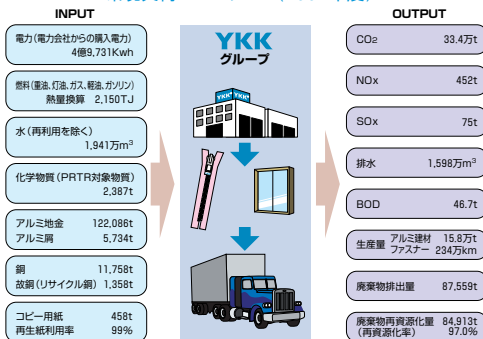


環境経営基本方針と政策：YKKグループは環境宣言を受け、中期環境経営基本方針に「循環型社会構築への寄与」を掲げ、主要事業である建材事業やファスニング事業がおよぼす環境負荷低減のために、4つの項目を中期環境経営基本政策と定め、それに沿った環境行動目標に取り組んでいます。

○環境経営基本政策

1. グリーンマーケットへの対応と貢献
2. 環境負荷低減経営の更なる徹底
3. グローバル環境経営システムの構築と活用
4. 環境コミュニケーションの推進

YKKグループ国内工場・オフィスの環境負荷マスマランス (2004年度)



事業における環境負荷(マスマランス)：建材やファスニング製品の製造には大量のエネルギーと化学物質が必要で、CO₂や廃棄物も排出されます。

YKKグループでは、最先端の省エネ設備導入やCO₂・NOx・SOx排出量の少ない燃料への転換、有害化学物質の代替化などを積極的に図るとともに、資源の有効利用やゼロ・エミッション(廃棄物の埋め立てゼロ)を進めています。

原材料においても、社内で発生する回収屑やアルミホイール、サッシ屑、木粉、再生チップ、故銅などの市場リサイクル材を投入することにより、環境負荷の低減に努めています。

4つの環境経営基本政策に対し、行動目標を掲げて年度ごとの目標を定め
実行し、検証しています。

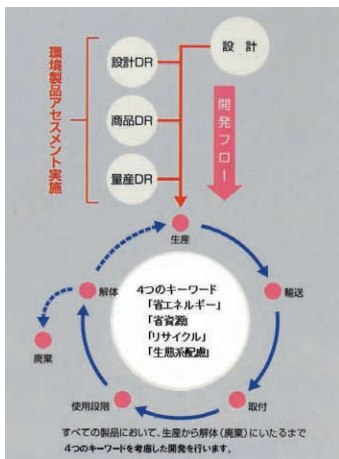
環境経営基本政策	環境行動目標	
グリーンマーケット への対応と貢献	1) グリーンマーケットに対応した エコプロダクツ・サービスの開発・提供	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプロダクツの開発提供の推進 ・エコプロダクツ情報開示
	2) 環境ラベルの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年度末までに全事業において自己宣言型環境ラベルの策定、 利用を目指す
	3) グリーン調達への推進 (取引先企業への働きかけ)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の少ない工場で製造された環境配慮資材の調達 ・取引先への働きかけ
	4) 包装・梱包資材の減量化、易リサイクル化	<ul style="list-style-type: none"> ・梱包資材の使用量削減 (減量化・小型化・リユース) ・包装、梱包資材の回収リサイクルの推進
環境負荷低減経営の 更なる徹底	1) 地球温暖化対策 (温室効果ガス削減、エネルギー総量低減、輸送効率の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・主要生産拠点で継続的に、CO₂ 総排出量を年率1%削減 ・クリーンエネルギーの導入 ・輸送効率の向上、モーダルシフトの推進、地方港の利用推進
	2) ゼロ・エミッションに向けてReduce, Reuse, Recycle (3R)と異業種間再資源化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・2005年度末までに世界の主要拠点でゼロ・エミッション達成を目指す
	3) 化学物質のリスク低減	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の主要生産拠点で有害物質の使用削減および適正管理を 継続的に推進する
	4) グループ資産の環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> ・所有地の汚染評価 ・微量PCB含有機器の調査と適正保管
グローバル環境経営 システムの構築と活用	1) ISO14001認証取得と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ全域でのISO14001認証取得
	2) 環境会計システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・環境会計システム運用と活用
環境コミュニケーション の推進	1) グループ世界環境会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな環境データ一元管理
	2) 環境情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> ・環境報告書の継続的発行 ・環境展示会への出展 ・環境教育制度の整備
	3) 地域社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・社会活動の推進

2004年度目標	2004年度実績	実績評価
<ul style="list-style-type: none"> 新規開発商品、新規開発項目の環境製品アセスメントを100%実施する エコプロダクツをインターネット上に開示推進 	<ul style="list-style-type: none"> 新規開発商品、新規開発項目の環境製品アセスメントを100%実施 「YKK AMAZING SNOW FIELD」にて新たにファスニング事業を中心とした環境への取り組みを開示 	○
<ul style="list-style-type: none"> エコプロダクツ商品カタログの充実、活用 	<ul style="list-style-type: none"> YKK APホームページにて環境配慮型商品情報を掲載 	○
<ul style="list-style-type: none"> 取引先285社（購入金額比率32%）に対し調達品の化学物質含有調査を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 取引先417社（購入金額比率81%）に対し調達品の化学物質含有調査を実施 	○
<ul style="list-style-type: none"> リサイクル広域圏制度の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 広域認定制度を活用した廃材の回収・再利用システムの開始 	○
<ul style="list-style-type: none"> 国内の主要工場でCO₂排出量前年比1%削減 環境省 排出量取引試行事業への参画 	<ul style="list-style-type: none"> 前年比1.6%削減、1990年度比22.7%削減 環境省 排出量取引試行事業へ参画 	○
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物定義の明確化、見直し 更なる再資源化率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物定義の見直し 再資源化率97.0%（前年度比0.4%向上） 	○
<ul style="list-style-type: none"> 化学物質管理ガイドライン策定 	<ul style="list-style-type: none"> 関連ガイドラインの発行 ○化学物質管理ガイドライン ○PRTR集計ガイドライン ○MSDSデータベース運用管理ガイドライン 	○
<ul style="list-style-type: none"> 所有地の土壌汚染調査の開始 対象機器の調査開始 	<ul style="list-style-type: none"> 富山県内（50拠点）実施 主要製造サイトの対象機器所有調査完了 	○
<ul style="list-style-type: none"> 非生産拠点、新規海外進出拠点での認証取得 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに海外9拠点認証取得 	○
<ul style="list-style-type: none"> 内部利用のための環境会計手法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による内部利用のための環境会計の研修会実施 	○
<ul style="list-style-type: none"> 第2回環境国際会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 事業別に環境国際会議を開催（2004.9、12） 	○
<ul style="list-style-type: none"> 環境報告書の発行 環境展示会への出展 教育ツールと体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> YKKグループ環境・社会報告書2004を発行（2004.7） エコプロダクツ2004へ出展（2004.12）、とやま環境フェアへ出展（2004.10） 従業員向け環境情報提供データベース「ecoインフォメーション」を開設（2005.2） 	○
<ul style="list-style-type: none"> 社会活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域で環境ボランティア活動を実施 環境啓蒙イベントの開催 	○

YKKグループは、商品・サービスを通じて循環型社会構築に貢献します。



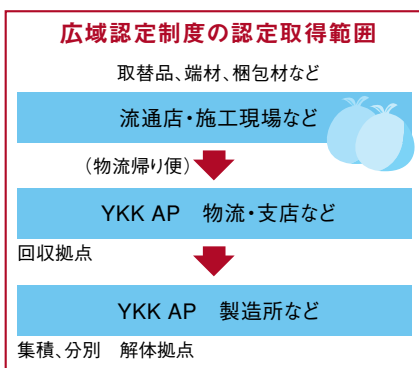
エコプロダクツビジョン:環境に配慮した商品(エコプロダクツ)を提供するためのビジョンを設定しています。商品の「環境高性能」:社会が求めるエコプロダクツの基準を満たすもの(長寿命、省エネ、防音、環境負荷低減素材の使用、リサイクルの容易性など)、「安全・安心」:使用する人が安心して使える商品の提供(有害物質を含まない、シックハウス対策、防犯対策など)、「快適生活スタイル」:お客様個々のスタイルに合わせた快適な暮らしを支える商品の提案(ユニバーサルデザイン、日常の手入れのしやすさ、リフォーム、ユーザーのライフスタイルに対応など)の考えを開発する商品に取り入れることで、商品を通じて循環型社会構築に貢献していきます。



環境製品アセスメント評価:エコプロダクツの開発推進ツールとして、環境製品アセスメント評価を行っています。商品開発での設計・商品・量産の各デザインレビュー段階で、生産・流通・使用・廃棄に至るライフサイクルを通して「省エネルギー」「省資源」「リサイクル」「生態系配慮」に考慮した商品であるかどうかを評価し、環境負荷が少ないエコプロダクツの開発を進めています。

グリーン調達:YKKグループでは、仕入先の皆様との協同的な取り組みにより環境負荷の着実な低減と環境リスクの回避を図るとともに、環境配慮型商品開発の指針となることを目的として、「グリーン調達ガイドライン」を策定しています。

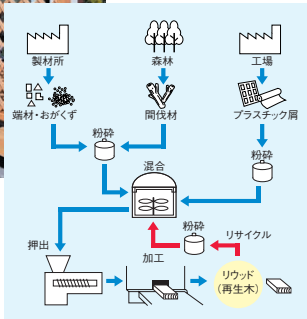
仕入先の皆様へアンケート調査を行い、それから得られた情報をデータベース化し、商品に含有される有害化学物質の削減、および商品開発・設計の段階で環境負荷の低い材料や部品を選択できるように役立てています。



広域認定制度を活用した廃材の回収・再利用:YKK APは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく廃棄物の広域的処理に係る特例制度である広域認定制度の認定を2005年4月22日付けで環境省から取得しました。

この広域認定制度を積極的に活用して、お客様からの要望の高かった新築・改築などから排出される建築用複合部材や梱包材をリサイクルすることでサービスの向上と循環型社会構築に貢献していきます。処理を行う区域は九州の7県から開始していきますが、2006年度中をめどに全国で同システムを展開していく予定です。

エコプロダクツビジョンの「環境高性能」から生まれた商品の一例です。



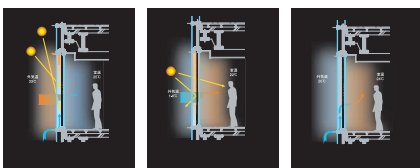
リウッド製造フロー

リウッド (再生木):木粉にポリプロピレンを配合して成型した、地球と人にやさしいノンホルムアルデヒド製品です。天然木の質感を備えると同時に、強度、耐久性に優れ、健康や環境に配慮したYKK AP独自の素材です。

原料は、製材所から出る廃材と、工場から出る廃プラスチックです。リウッドの廃棄時には、粉碎することで、再度リウッドにリサイクルします。材料を溶かして混ぜ、型から押し出す製造方法ですから、接着剤を使用しません。そのため、人体に影響をおよぼす「ホルムアルデヒド」が発生しません。また、密度が高いため、表面に傷が付きにくく、太陽の光や昼夜の温度変化による干割れを起こしにくく、水をほとんど吸収しないため、反り・腐食が起りにくい素材です。さらに、端材・おがくずなどを原料としていますので、木のあたたかみが感じられる素材です。



ダブルスキンファザードシステム概念図



夏期 空気層内の遮光ブラインドで日射をさえぎり、発生する熱を上部排気装置から外部へ排出する。
冬期 上部換気装置を閉鎖し、二重ガラス構造とする。蓄熱効果により断熱性能の向上が図れます。
中間期 インナーサッシを開放し、外気を積極的に利用することにより、アメニティを向上します。

ダブルスキンファザードシステム:日本には、昔から高温多湿の気象条件に適応するための様々な技術があります。自然の力を利用し、快適な環境をつくり出す工夫です。例えば縁側。夏場には縁側のひさしが直接部屋に日差しが差し込むのを防ぐ効果を、冬場には建具間に挟まれた「大きな空気層」に蓄えられた熱だまりによって保温効果を得られます。

最近のビルの外装は、ガラスを多く使って透明なものが多くなってきました。窓周り、開口部は季節の気候に影響を受けやすいため、本当は縁側のような快適な空間をつくりたいのですが、スペースの問題などで難しいのが現状です。

そこで狭い中間空気層を持ったダブルスキンという技術が生まれました。2つのスキンの間に外気を取り入れ自然の力で循環することで、狭い空間(奥行約300mm)の中で縁側という場所全体が持つ効果を実現しています。この技術によって窓際の空調が不要となり、大きな省エネ効果が得られました。YKK APでは快適な環境の実現のため、先人の知恵を現代の技術に取り入れた技術提案を行っています。

リサイクルファスナー ナチュロン® 生分解性ファスナー リアース™:私たちの生活を便利にさせたプラスチック製品ですが、使用後のゴミ問題や、焼却の際のダイオキシンや地球温暖化問題が発生しています。YKKは、このような環境問題対策を目的とした商品の開発に取り組んでいます。

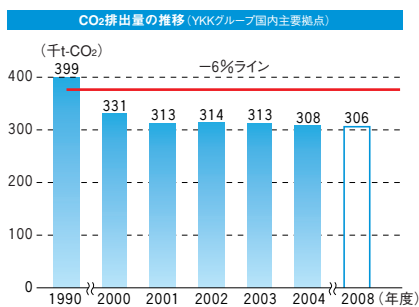
「ナチュロン®」は、リサイクル材を使用したファスナーです。オールポリエステル系の材質で構成されているので、使用後には再生可能な資源循環型システムに適応します。グリーン購入法に基づいた製品(アパレル、カバンなど)に使用するファスナーとしても利用できます。

「リアース™」は、とうもろこしなどの植物系素材から構成された生分解性ファスナーです。使用後には自然界の微生物によって水と二酸化炭素に分解され、自然に還ります。



環境負荷低減経営—地球温暖化防止

工場の新設や設備更新時の高効率設備の導入。生産変動に対応したエネルギー消費のための工程改善。設備を効率良く稼働させるための管理標準の整備などの省エネルギー活動を積極的に推進しています。また、輸送効率を向上させることで、地球に優しい輸配送を目指します。



2004年度実績:環境マネジメントシステムに組み込んだ各職場単位での省エネ活動や設備更新時の高効率機器の導入などの効果により、CO₂の排出量1990年度比-6%削減はすでにクリアし、2004年度はさらに、対前年比1.6%削減しました。

また、2003年から参加している環境省の温室効果ガス排出量取引試行事業において、2003年度実績に対する検証を第三者機関より受けました。結果、現状のデータの取り方、算出方法などが適正と判断されました。これを受け、海外でのデータの取り方も統一すべき現状調査を行いました。今後は世界ベースでの削減に向けて取り組みます。



ランプ切替えによる省エネ (黒部牧野工場):黒部牧野工場は、3交替を主とした操業形態のため使用される照明電力量も大きく、2003年度は1,734千Kwhで、全電力使用量の約7%でした。

そこで、水銀灯(400w)より照度を向上させつつ省エネである、反射板付のセラミックメタルハライドランプ(CDM灯:175w)に450灯切替えました。この切替による削減電力量は730千Kwhで、設備費は2.8年で回収できました。



省エネ委員会 (YKKベトナム社):YKKベトナム社では、労務費10%、電気代12%と労務費よりも電気代の方が加工費に占める割合が高く、また、建屋の増築により固定部分の電気代が30%も上昇していました。加えて企業の社会的責任として地球温暖化防止の実行が求められる中、近年勤労なベトナム人女性の会社活動への参加が増えてきており、積極的な省エネ活動を推進するために女性を中心とした省エネ委員会を発足し活動を展開しました。

具体的には、「省エネの啓蒙ステッカーやポスターの作製」「エアコンに温度管理ステッカーを貼り、温調部に管理者以外温度を変えられないように施錠」「蛍光灯の位置を見直し、間引き」「手元スイッチを取り付け必要な箇所のみ点灯」「各工程の分電盤にメーター取り付け、消費電力量をこまめにチェック」など、きめ細かな省エネ活動を実施しています。



排水ポンプ温度コントローラーの設置 (YKKシンガポール社):以前は、下水道に排出する排水の温度基準を順守するために、温度に関係なく、終日ポンプを運転させていました。冷却ブローアのエネルギー消費を抑えるために、排水温度の基準である44℃以上になったときに稼働するよう、温度センサーを取り付け排水ポンプの運転をコントロールしました。これにより、省エネは対前年度比60%、ならびに設備の回収年数も1.6年と高い効果を生みました。

廃棄物を資源と考え再資源化し、ゼロ・エミッション達成に取り組んでいます。

**YKKグループの
ゼロ・エミッションの定義**

- ① 廃棄物の再資源化率を97%以上
- ② 達成した月から3ヶ月以上維持
- ③ 再資源化方法、委託先の明確化

※対象:不要となったものすべて
(有償、逆有償問わず)

ゼロ・エミッションの考え方:YKKグループは、「事業活動に伴って発生する廃棄物の埋立て処分量をゼロにすること」を基本方針に、2005年度末までに世界の主要拠点でゼロ・エミッション達成を目指して取り組みを続けています。

次の段階として、廃棄物総排出量の削減や再資源化方法の質の向上を目指し、更なる環境負荷の最小化に努めます。

2004年度実績:2004年10月にYKKグループのゼロ・エミッション定義を改定し、新たな取り組みをスタートしました。これまで自治体委託の一般廃棄物や特定有害物質など再資源化が困難な廃棄物は対象から除外していましたが、対外的にも分かりやすい内容とするために、廃棄物を「不要となったものすべて(有償、逆有償問わず)」と定義しました。

2004年度の排出量は、8.8万トンで前年度比11.2%増となりました。これは、複層ガラスの生産増、黒部工場の構築物解体によるものが主な要因です。



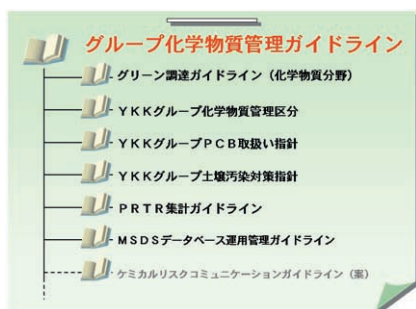
再資源化率は97.0%で前年度比0.4%向上しました。連続粉碎投入装置導入による木屑廃材の社内リサイクル強化、プラスチック類の分別によるマテリアルリサイクル化、既存リサイクルルートへの搬出量の増加などを実施したことにより、再資源化率のアップに繋がりました。

染色汚泥のリサイクル(YKK台湾社):YKK台湾社では、主要排出物として染色廃水処理で発生する染色汚泥(500t/年)があります。従来は埋め立て処分されていましたが、新規リサイクルルートの開拓に取り組み、2004年11月から染色汚泥全量をレンガの原料としてのリサイクルを始めました。それにより、YKK台湾社全体の再資源化率は55%から67%に大幅に向上しました。



洗浄用シンナーの再利用(YKKインド社):塗装工程では、塗装機での色替えのために洗浄用シンナーを使用し、汚れたシンナーを廃棄処分していました。近年の多色小ロット化の流れを受けて、洗浄用シンナーの使用量が増加傾向にあり、環境負荷低減を目的とし、シンナー再生機を2台導入しました。その結果、コスト削減にも繋がりました。

法律や協定などの遵守はもちろん、化学物質の適正管理、土壌・地下水・大気・水域への地域環境保全および環境事故の未然防止活動など環境リスクの低減に努めています。



化学物質管理体制

2004年度実績: YKKグループ全体を対象として、化学物質の取り扱いに関する「化学物質管理ガイドライン」を作成しました。その他、土壌調査やPCB問題への対応に関するガイドラインなどを合わせ、化学物質管理体制を構築しました。

2005年度以降はこの体系をグループ全体に定着させ、化学物質による環境負荷やリスクを更に低減していきます。



塗料のクロムフリー化
切替前(左)と切替後(右)

はんだ・塗料の鉛フリー・クロムフリー化: EU (ヨーロッパ連合) によるRoHS指令 (電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令) では、2006年7月よりEU加盟国内に販売される電気電子機器に重金属などの有害化学物質を使用することが禁止されています。

工機事業本部で購入する塗料やはんだ材料には、鉛やクロムが含まれています。これらの物質を全廃するため、2004年度から調達先と共同して代替化のテストを行っています。



微量PCB含有機器保管倉庫

PCB対策: PCB (ポリ塩化ビフェニル) は2001年にPCB特別措置法が施行され、2016年度までの適正な処理が義務付けられています。トランスやコンデンサなどのPCB含有機器は、法に則り管理・保管しています。これらは自治体で作成する処理計画に参画し、適正処理を行います。

また、PCBを微量に含む設備については、取り扱いに関する指針を作成し2003年度より運用しています。

2004年度はYKKグループ国内において、設備中のPCB含有状態の調査を実施しました。PCBを微量に含有している設備についても、グループ国内で集中保管体制を構築しました。2005年度も、PCBの適切な処理のために、調査を引き続き行い、設備の確実な保管を行っていきます。



イタリア社の排ガス燃焼装置

排ガス処理設備の導入 (YKKイタリア社):有機化学物質による大気汚染は、日本だけでなく全世界にわたる重要な課題として考えられています。

YKKイタリア社では、揮発性有機物質排出量削減のため、2004年11月に塗装施設の排ガス処理設備を導入しました。4台の塗装機からの排気を集約し、800℃の高温で有機物質を燃焼させます。現行の州の法律である大気中への排出許容量20mg/Nm³に対し、測定値は9.6mg/Nm³と良好な結果を得ています。



インド社の雨水回収装置

雨水回収施設の設置 (YKKインド社):地下水の汲み上げが原因で、地盤沈下や地下水の減少が大きな問題として取り上げられています。

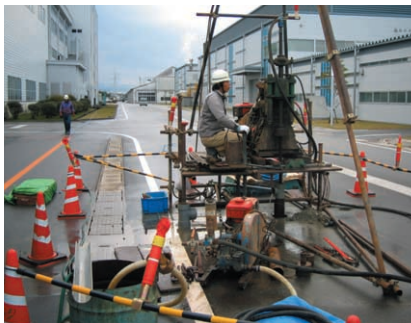
YKKインド社では、工場に降った雨水を集め、地中に戻す雨水回収施設を設置しました。内部は槽になっており、さらに管を埋め込むことで雨水の浸透を早めています。今後も同様の施設を増設するなどして、地下水資源の維持に取り組んでいきます。



ダクト火災予防用の消火設備 (中央)

ダクト火災の防止:油や塗料などが排気ダクトの中に付着していると、炎や火花がダクトの中に入った際に引火し、ダクト火災を引き起こします。

ファスニング事業本部は、国内では法律で求められる以上の防災設備を設置しています。ダクト用のダンパーや消火設備を設置し、ダクト火災を防止しています。また海外では、大連工場で塗装機に排気ファンを設置し、ダクト内の溶剤や塗料の蓄積を防いでいます。



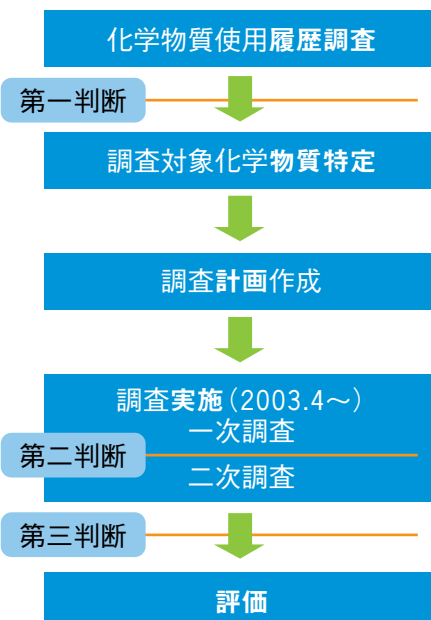
ボーリング調査

土壌汚染対策法について:土壌が有害物質により汚染されると、その汚染された土壌を直接摂取したり、汚染された土壌から有害物質が溶け出した地下水を飲用することなどにより人の健康に影響を及ぼすおそれがあります。

こうした土壌汚染は、これまで明らかになることが少なかったのですが、近年、企業の工場跡地などの再開発などにともない、重金属、揮発性有機化合物などによる土壌汚染が顕在化してきています。

土壌汚染による人の健康への影響の懸念や対策の確立への社会的要請が強まってきている状況を踏まえ、国民の安全と安心の確保を図るため、土壌汚染の状況の把握、土壌汚染による人の健康被害の防止に関する措置などの土壌汚染対策を実施することを内容とする「土壌汚染対策法」が、2002年5月22日に成立しました。

土壌調査フロー



土壌調査報告:YKKグループでは、土壌保全是地域環境保全および土地資産価値の観点から経営リスクマネジメントにおいて重要なものと位置付けて取り組んでいます。

2003年2月15日に土壌汚染対策法が施行されました。

YKKグループはその時点では本法律の適用を受けませんでしたが、「YKKグループ土壌汚染対策指針」を作成し、自主的に調査を開始しました。まず、YKKの生い立ちから富山県内の所有地から始めることにして法施行前の2002年度は土地概況調査、土地履歴調査を行い、2003年度～2004年度は土壌汚染対策法の基準に沿って土壌分析調査（ボーリング調査含む）を実施しました。

結果はいままで調査した土地には浄化が必要な土地は出ていません。その結果は行政（富山県）へ報告しました。（詳細データは、P38をご覧ください。）

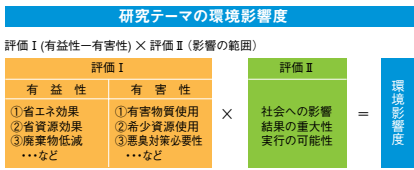
今後も自主的な取り組みとして、富山県の実施事例を踏まえて全国展開していく予定にしています。

YKKインド社で土壌調査を実施（2004年2月）:将来を先取りし、自主的に土壌調査を実施しました。

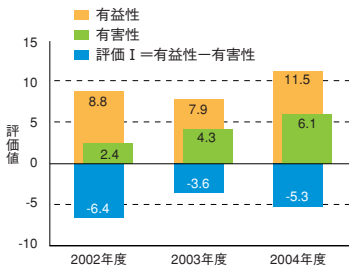
日本で行っている土壌調査方法を参考に、自社の化学物質使用履歴、土地使用履歴を調査し、測定物質の抽出、調査箇所を選定を行った後、土壌調査を実施しました。今後も計画的に調査を継続していきます。

地下水調査報告:YKKグループでは地域特性により、地下水を生活用水および工業用水として利用している工場があります。これらの工場の地下水については土壌汚染調査の観点から自主的に1999年度から継続的に地下水調査を実施しています。

調査項目は現在使用していない物質も含めて過去に使用履歴のあるものを測定しています。その結果は全ての項目が環境基準未満となっています。（詳細データは、P37をご覧ください。）

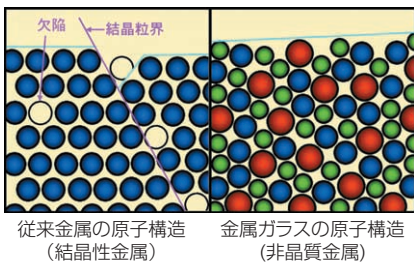


研究テーマの環境影響度:研究開発センターでは、研究テーマの環境に対する有益性と有害性に着目し、有益性の評価点から有害性の評価点を引いた値を「評価Ⅰ」、研究テーマの「影響の範囲」を「社会への影響度」、「結果の重大性」、「実行の可能性」という観点から評価した値を「評価Ⅱ」と定義し、評価Ⅰと評価Ⅱの積を「環境影響度」として、すべての研究テーマについて環境影響度を算出して序列化し、研究テーマの管理に利用しています。

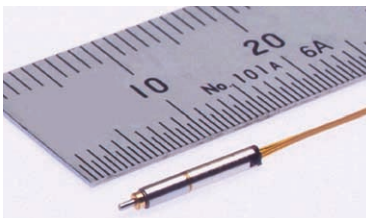


評価Ⅰの結果について、2002年度から2004年度までの研究テーマの環境影響の推移を全テーマの平均値で見ると、年度ごとに有益性と有害性の増減が見られますが、評価Ⅰは3年間で2.4ポイントから6.1ポイントに増加して有益性が大きくなり、環境にプラスの影響を及ぼす側面が大きくなっていることが分かります。「評価Ⅱ」の「社会への影響度」について、下記に示すテーマは医療分野への影響度が非常に大きいテーマとして評価しています。

研究開発センターでは、今後も新規テーマの設定時と年度始めに研究テーマの環境影響評価を実施し、その変化を継続的に確認し続けることで環境に配慮した研究開発を推進します。

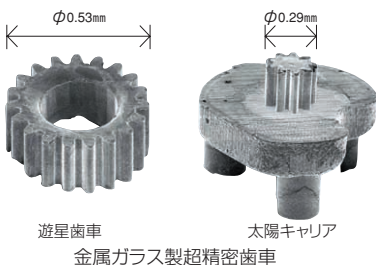


金属ガラス製超精密歯車の開発:YKKは、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の「金属ガラス成形加工プロジェクト」に参加しており、この度東北大学金属材料研究所、(財)次世代金属・複合材料研究開発協会 (RIMCOF)、東北大学研究室、並木精密宝石 (株)、および群馬大学工学部と共同で、金属ガラス製の超小型歯車を用いた直径1.5mmの世界最小ギヤードモーターの開発に成功しました。



金属ガラス製超精密歯車を使った世界最小のギヤードモーター

金属は、一般に原子が規則正しく並んだ結晶状態を持つのが普通ですが、YKKが東北大学金属材料研究所と共同開発した「金属ガラス」は、金属なのにガラスのように結晶構造を持たない材料です。特徴は、強くても曲がりにくく、膨張・収縮しにくいという性質を持っています。溶けた状態から固まる時に収縮しにくいので、鋳造では金型の形状を精密に再現することができます。このような金属ガラスの特長を生かして、研究開発センターでは超精密鋳造技術の開発に取り組み、今回の超小型歯車を作ることが可能になりました。



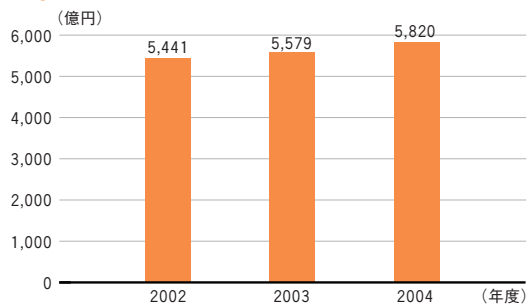
このマイクロギヤードモーターは、内視鏡やカテーテルなど人間の体内で使用する医療機器の駆動源として用いることが考えられます。また、医療用の小型携帯ポンプに応用すれば、例えば常時身に着けられる糖尿病患者向けのインシュリン投与器具が実現でき、通院することなく安心して出かけられるようになるなど、患者に苦痛を強いることなく高度な検査や治療が行えるようになるのも夢ではありません。

このように本テーマは社会への貢献活動として高度医療分野への波及効果は大きく、今後の実用化が大いに期待されています。

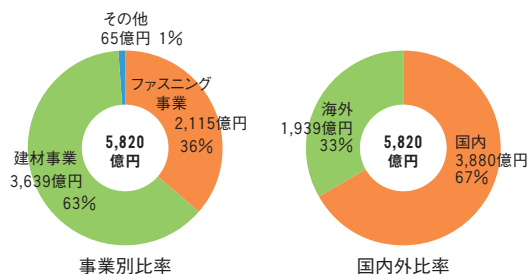
データ編



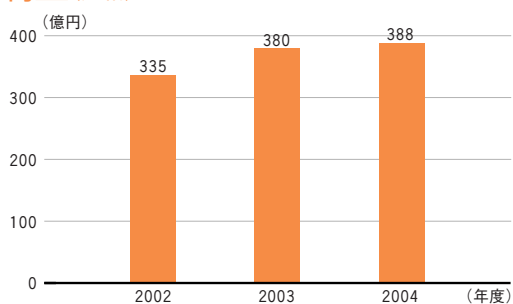
売上高 (連結)



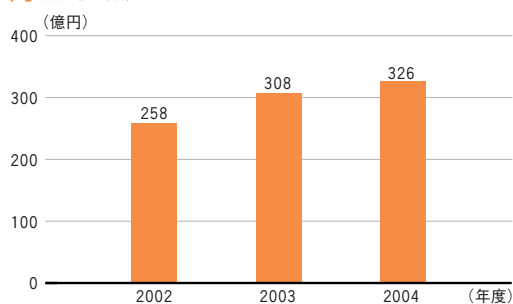
売上高構成比 (連結)



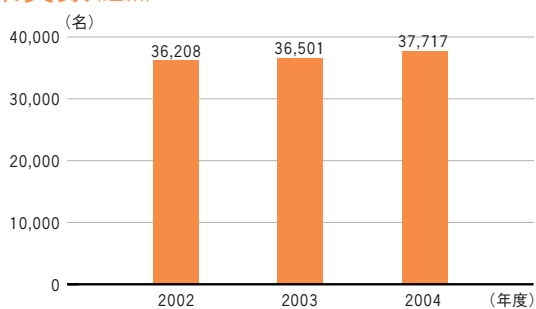
営業利益 (連結)



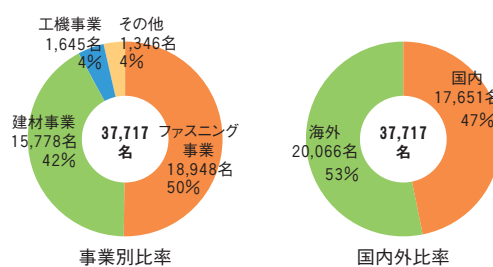
経常利益 (連結)



従業員数 (連結)



従業員構成比 (連結)



人事・安全衛生・健康 ※YKKグループ国内

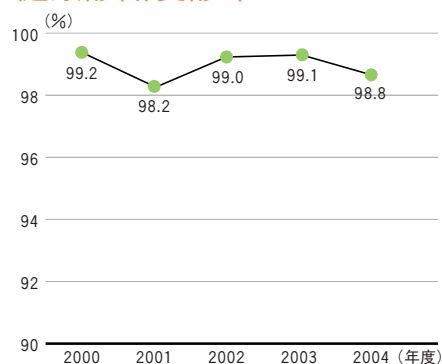
2004年度実績 (2005.3末現在)

平均年齢	40.0歳
平均勤続年数	18.0年
男女構成比	男:69% 女:31%
平均労働時間	YKK : 1,713時間 YKK AP : 1,745時間 その他 : 1,536時間
早期離職者数	759人
有給休暇消化率	22.6%
育児休業取得者	157人

労働災害統計 (度数率)



健康診断受診率



事故、災害の発生状況 (2002~2004年度)

発生年月日	区分	内容	発生場所	対応
2003年1月20日	火災	ロールコート機にシンナーを投入中に火災発生、保護カバーなどが燃焼	黒部	社内にて初期消火
2004年3月8日	火災	排気ファン内部に塗料成分が付着、近くの部品が接触して火花が発生し引火	黒部	社内にて初期消火
2004年10月20日	台風被害	敷地内の樹木倒壊及びフェンス破損	滑川	撤去・補修
2004年10月20、26日	台風被害	工場の屋根破損	黒部	補修
2005年1月11、12日	停電	送電線に着雪し送電が停止	黒部	電力会社にて復旧作業

地域からの苦情 (2002~2004年度)

工場	場所	内容	対応
2002年11月29日	黒部牧野工場	深夜(0~1時)になっても工場からの騒音がなくなる	アルミ集塵機の送風機の能力を抑え、ダクトの形状を変更
2002年12月5日	黒部事業所 荒俣地区	生ゴミ肥料試作場の排気口から悪臭がする	住民への生ゴミ肥料試作の説明と地区側に向けた排気口の使用を中止
2004年7月6日	黒部事業所 越湖地区	YKK AP越湖製造所に入出する業者の交通マナーが悪く非常に危険	担当部署を通し出入業者の交通マナー改善。運行の支障となると判断した障害物について、市の市民環境課に依頼し、撤去・改修
2004年7月15日	黒部事業所 グラウンド	稲の花の開花時期にあたり、グラウンドの夜間の決められた照明時間を徹底させてほしい	該当クラブ長へ利用規定を厳守するよう通達し、徹底を図った
2004年8月4日	黒部牧野工場 隣接道路・民家	樹木の落ち葉で、道路の側溝が詰まる また自宅の庭へ落ち葉が落ちる	現地確認し、業者による樹木の手入れを実施
2004年10月19日	通勤道路	小学生の通学路であり、制限速度を守るとともに、周辺道路へ迂回するよう指導してほしい	従業員へ、YKKグループ中央交通安全委員会を通して、運転マナーの徹底を図った

潜在リスクと予防

2005年3月現在

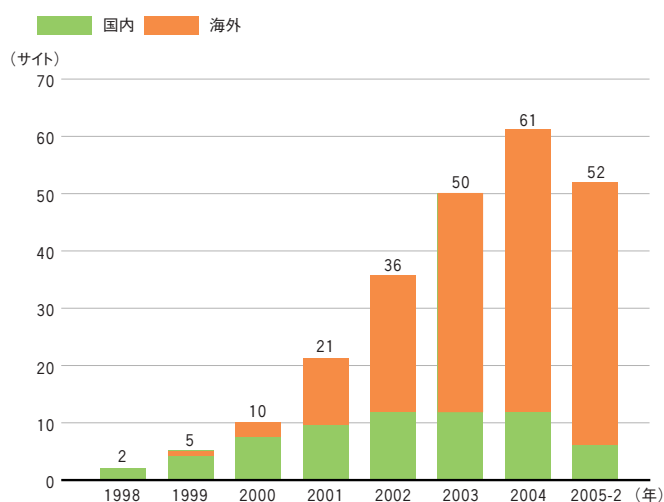
リスクの種類	工場	火災時	地震時	河川の氾濫・堤防の決壊時 流出の可能性がある要因
		爆発の可能性がある要因	爆発または流出の可能性がある要因	
高圧ガス	東北	液化窒素:2.1t、液化アルゴン:3.8t、液化アンモニア:1.0t		
	黒部	LPG:26.0t、液化窒素:11.8t、液化アルゴン:5.8t、液化アンモニア:1.0t、液化炭素:3.3t		
	四国	LPG:4.5t、液化窒素:7.6t、液化アンモニア:2.0t、R134a:1.0t		
	九州	LPG:65.2t、液化窒素:2.0t、液化アルゴン:3.5t、液化アンモニア:2.0t		
危険物 (重油、灯油、潤滑油、 作動油など)	東北		510 kl	
	黒部		2,469 kl	
	四国		346 kl	
	九州		382 kl	
注水による爆発 の可能性がある施設	東北	溶解炉、ボイラー、濃硫酸タンク、熱風乾燥炉、焼却炉		
	黒部			
	四国	溶解炉、ボイラー、濃硫酸タンク、熱風乾燥炉		
	九州			
薬品 (毒物劇物取締法の 対象となる主な薬品)	東北		硫酸:69kl、苛性ソーダ:54kl、塩酸:0.9kl	
	黒部		硫酸:148kl、苛性ソーダ:129kl、塩酸:18.7kl、アンモニア:14kl、 シアン化合物(固形):1t、シアン化合物(液状):230kl	
	四国		硫酸:34kl、苛性ソーダ:17kl、塩酸:18kl、アンモニア:2kl	
	九州		硫酸:96kl、苛性ソーダ:28kl、塩酸:6kl、アンモニア:5kl、シアン化合物(固形):0.47kg、クロム酸:30kl	
予防	全事業所	潜在リスクを把握することで、防災シミュレーション訓練や設備の防災対策を的確に実施しています。		

地域防災への協力 (防災備品の提供)

2005年3月現在

工場	非常時用備品						地域への協力	
	油吸着マット (枚)	油中和剤 (L)	オイルフェンス (式)	砂袋 (袋)	アルカリ中和剤 (L)	酸中和剤 (L)	避難場所の提供 (災害時のグラウンド開放等)	防災備品の提供 (要請に応じた防災備品の提供)
東北	200	180	1	50	100	100	有り	有り
黒部	3,470	2,158	6	526	990	920	有り	有り
四国	300	24	0	300	180	180	有り	有り
九州	90	100	0	60	60	60	有り	有り

ISO14001認証取得実績 (取得サイト累計)



2005年2月にYKK APが登録済みの10組織を1組織に統合したため、取得サイトの累計が減少しています。

環境会計

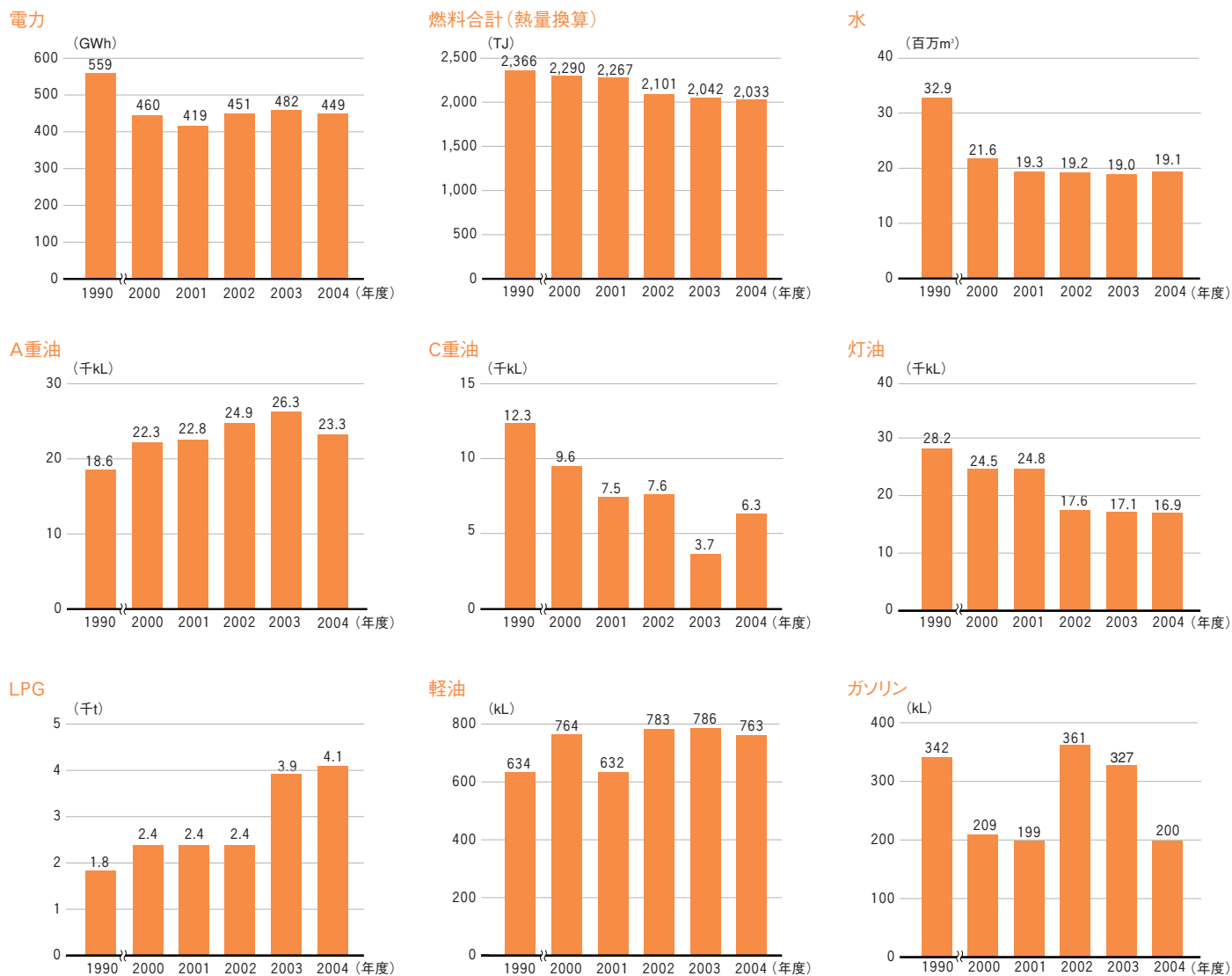
2004年度環境保全コスト実績 (範囲:国内YKKグループ)

単位:百万円/年

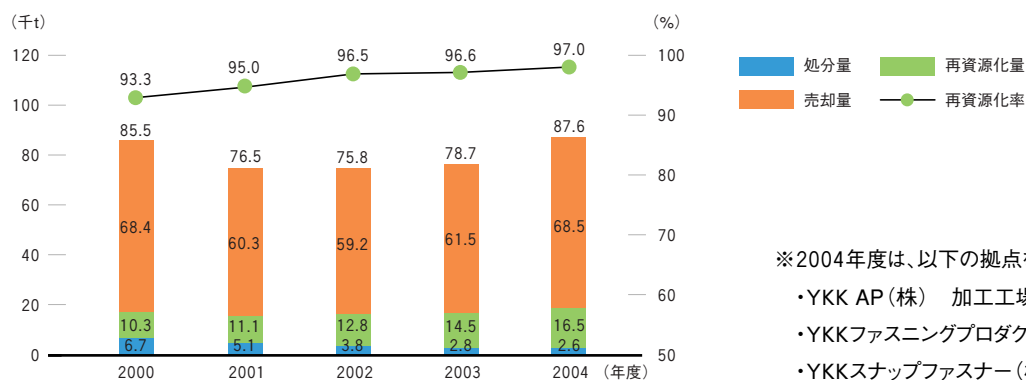
項目	主な取組の内容	設備投資	経費	
事業エリア内コスト	公害防止	169	729	
	地球環境保全	633	639	
	資源循環	30	1,038	
事業エリア内コスト計		832	2,407	
上・下流コスト	リサイクルシステムの構築	0	66	
管理活動コスト	ISO14001 維持管理費、環境展示会、環境報告書、環境関連分析、緑化	3	436	
研究開発コスト	エコプロダクツの開発	9	697	
社会活動コスト	地域社会との共同ボランティア活動	1	65	
環境損傷対応コスト		0	0	
その他のコスト	消防設備の点検と管理	2	37	
合計		848	3,707	
		2003年度	540	3,002
		2002年度	568	2,802
		2001年度	592	3,317
		2000年度	1,345	4,030

	環境設備投資			環境経費		売り上げ (億円)	総設備投資 (億円)
	(億円)	売上比 (%)	設備投資比 (%)	(億円)	売上比 (%)		
2004年度	8.5	0.2	4.1	37.1	1.0	3,880	209
2003年度	5.4	0.1	2.1	30.0	0.8	3,795	254
2002年度	5.7	0.1	3.6	28.0	0.7	3,857	156
2001年度	5.9	0.2	2.7	33.2	0.9	3,852	218
2000年度	13.5	0.3	4.4	40.3	1.0	4,056	307

エネルギー種類別使用量の推移 (YKKグループ国内主要生産拠点)



廃棄物排出量、再資源化率の推移



※2004年度は、以下の拠点を追加し集計範囲を拡大しています。

- ・YKK AP (株) 加工工場など7拠点
- ・YKKファスニングプロダクツ販売 (株)
- ・YKKスナップファスナー (株)

大気

施設	工場	ばいじん [g/Nm ³]					窒素酸化物 [ppm]				
		国排出基準	市・町協定値	自主排出基準	2004年度測定最大値	判定	国排出基準	市・町協定値	自主排出基準	2004年度測定最大値	判定
ボイラー	東北	0.25	0.20	0.19	0.021	適	230	230	225	87	適
	黒部	0.30	—	0.01	<0.01	適	180	—	54	54	適
	四国	0.30	—	0.25	0.07	適	250	—	225	110	適
	九州	0.30	0.30	0.29	0.05	適	250	170	160	90	適
焼却炉	東北	0.25	0.25	0.24	0.063	適	250	250	245	200	適
ディーゼル機関	四国	0.10	—	0.09	0.03	適	950	—	900	840	適
	九州	0.10	0.10	0.09	0.05	適	950	950	900	560	適
鑄造溶解炉	東北	0.30	0.10	0.09	0.034	適	200	200	195	105	適
	黒部	0.20	—	0.10	<0.01	適	180	—	120	74	適
	四国	0.20	—	0.18	0.004	適	200	—	180	29	適
	九州	0.30	0.30	0.29	0.01	適	200	170	160	61	適
鑄造保持炉	黒部	0.20	—	0.28	0.01	適	180	—	175	27	適
	四国	0.20	—	0.18	0.003	適	200	—	180	66	適
鑄造均熱炉	東北	0.25	—	0.23	0.005	適	180	180	175	150	適
	四国	0.25	—	0.20	0.01	適	180	—	170	100	適
	九州	0.25	0.20	0.19	0.01	適	200	170	160	100	適
押出熱処理炉	東北	0.25	—	0.23	0.00	適	230	180	175	42	適
	黒部	0.20	—	0.19	<0.06	適	180	—	175	120	適
	四国	0.20	—	0.18	0.01	適	180	—	160	68	適
	九州	0.20	0.03	0.02	0.003	適	180	150	140	15	適
表面処理熱風炉	東北	0.25	—	0.23	0.002	適	230	230	225	41	適
	黒部	0.20	—	0.19	0.01	適	230	—	175	43	適
	九州	0.20	0.20	0.19	0.002	適	230	200	190	28	適

水質

単位:mg/L (pH除く)

項目	工場	国排水基準	都道府県排水基準	市・町協定値	自主管理基準	2004年度測定最大値	判定
pH	東北	5.8~8.6 ^{*1}	5.8~8.6	6.5~8.5	6.7~8.0	6.7~7.7	適
	黒部	5.8~8.6 ^{*1}	5.8~8.6	5.8~8.6	6.0~8.4	6.6~7.5	適
	四国	5.0~9.0 ^{*2}	5.0~9.0	—	6.0~8.6	6.6~7.7	適
	九州	5.0~9.0 ^{*2}	5.0~9.0	5.8~8.6	5.9~8.5	6.9~7.5	適
BOD	東北	120 ^{*3}	120	20	12.5	11.5	適
	黒部	120 ^{*3}	15/10	15/10	8	1.5	適
COD	四国	120 ^{*4}	25	—	20	19.5	適
	九州	120 ^{*4}	120	20	19.5	18	適
	東北	150	150	20	10	6.8	適
浮遊物質	黒部	150	120/100	50	30	11	適
	四国	150	25	—	20	8	適
	九州	150	150	20	19	9.1	適
	東北	5	5	1	1	0.9	適
油分	黒部	5	—	3	1	0.9	適
	四国	5	3	—	2.7	<1.0	適
	九州	5	5	5	4.5	<0.5	適
	ニッケル	東北	—	—	—	0.15	0.11
シアン	黒部	1	0.5	0.1	0.05	<0.01	適
	四国	60	—	—	35	20	適
窒素	九州	60	—	—	50	12	適
	四国	8 ^{*5}	—	—	2	0.1	適
リン	九州	8 ^{*6}	—	—	7	0.055	適
	黒部	0.5	—	0.1	不検出	<0.02	適
六価クロム化合物	九州	0.5	0.05	0.04	0.04	<0.005	適

*1、3;河川へ放流する場合の基準 *2、4、5、6;海域へ放流する場合の基準

ダイオキシン

施設	工場	大気 (単位:ng/TEQ/m3N)			判定	水質 (単位:pg-TEQ/m3N)			判定
		排出基準	2004年度測定最大値	排出基準		2004年度測定最大値			
廃棄物焼却炉	東北	10	0.011	適	—	—	—	—	
	東北	5	0.00023	適	—	—	—	—	
アルミ溶解炉	黒部	5	0.22	適	10	0.0065	適	—	
	四国	5	0.0022	適	—	—	—	—	
	九州	5	0.11	適	—	—	—	—	

PRTR 集計 (YKKグループ国内主要工場)

単位:t (ダイオキシン類はmg-TEQ)

物質番号	物質名	取引量	大気への排出	公共用水域への排出	土壌への排出	下水道への移動	消費量	除去処理量	事業所外への移動量
1	亜鉛の水溶性化合物	3.9	1.4	0.0	0.0	0.0	0.5	1.9	0.1
9	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0	3.0
40	エチルベンゼン	2.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
43	エチレングリコール	10.8	0.0	0.1	0.0	0.0	7.5	1.1	2.1
63	キシレン	220.0	64.8	0.0	0.0	0.0	4.3	138.8	12.1
68	クロム及び三価クロム化合物	24.1	0.2	0.0	0.0	0.0	23.5	0.0	0.4
69	六価クロム化合物	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.8
100	コバルト及びその化合物	12.0	0.0	1.9	0.0	0.0	8.7	0.0	1.4
108	無機シアン化合物(錯塩及びシアン酸塩を除く。)	29.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	29.2	0.1
145	ジクロロメタン	78.8	72.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5
172	N,N-ジメチルホルムアミド	30.6	30.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
179	ダイオキシン類(mg-TEQ)	—	5.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
227	トルエン	119.7	115.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.9
230	鉛及びその化合物	46.0	0.0	0.0	0.0	0.0	35.7	0.0	10.3
231	ニッケル	175.0	0.5	0.1	0.0	0.0	174.2	0.0	0.2
232	ニッケル化合物	35.1	0.0	5.2	0.0	0.0	26.8	0.0	3.1
270	フタル酸ジ-n-ブチル	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6	0.0	0.3
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	981.2	0.0	0.0	0.0	0.0	976.8	0.0	4.4
294	ベリリウム及びその化合物	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.1
304	ほう素及びその化合物	16.2	0.0	11.5	0.0	0.0	2.0	0.1	2.6
309	ポリ(オキシエチレン)＝ノニルフェニルエーテル	3.1	0.1	1.9	0.0	0.0	0.1	0.6	0.4
311	マンガン及びその化合物	94.5	0.1	0.0	0.0	0.0	86.4	0.0	8.0
2-78	メチレンビス(4,1-フェニレン)＝ジイソシアネート	467.3	0.0	0.0	0.0	0.0	441.6	0.0	25.7

※年間1t以上取扱いのある物質を集計。(特定第一種指定化学物質は年間0.5t以上、ダイオキシン類は例外)

※消費量:原料として消費する量、または製品に含有される量

※除去処理量:焼却や反応処理などで他の物質に変化する量

地下水調査

	物質名	単位	※環境基準	測定結果			
				2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
揮発性有機化合物	ジクロロメタン	mg/l	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.002未満
	四塩化炭素	mg/l	0.002以下			0.0002未満	0.0002未満
	1,1-ジクロロエチレン	mg/l	0.02以下			0.002未満	0.002未満
	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/l	0.04以下			0.004未満	0.004未満
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/l	1以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	トリクロロエチレン	mg/l	0.03以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	テトラクロロエチレン	mg/l	0.01以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
重金属等	カドミウム	mg/l	0.01以下			0.001未満	0.001未満
	シアン	mg/l	不検出	0.01未満	0.01未満	0.01未満	0.01未満
	鉛	mg/l	0.01以下			0.005未満	0.005未満
	六価クロム	mg/l	0.05以下	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.02未満
	セレン	mg/l	0.01以下	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	フッ素	mg/l	0.8以下			0.5未満	0.5未満
	ホウ素	mg/l	1以下			0.04	0.04

※環境基準:人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準

土壌調査

YKKグループ土地履歴調査記録(富山県)

No.	地目	現状の用途	面積	特定有害物質使用履歴		土壌調査の 必要性	評価
				使用物質名	有無の根拠		
1	宅地	工場	567,770	シアン、六価クロム、銅、トリクロロエチレン テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン ジクロロメタン	メッキ、塗装、表面処理 染色、断熱注入、ラミネート 工機熱処理、組立	○	○
2	雑種地	バス車庫、駐車場	60,306	—	旧田(航空写真)	×	○
3	雑種地	駐車場	7,189	—	旧田(航空写真)	×	○
11	宅地、雑種地	銀行、駐車場他	15,349	—	社員寮←田(航空写真)	×	○
20	用悪水路	河川の一部	286	—	一般河川	×	○
29	宅地、雑種地	緑地	2,465	—	旧バス車庫	×	○
30	宅地、雑種地	緑地	1,202	—	旧北銀支店	×	○
33	宅地	資材倉庫	2,016	—	旧田(航空写真)	×	○
39	雑種地	更地(金網フェンス)	975	—	旧田(航空写真)	×	○
4	宅地	工場	242,655	セレン、六価クロム、1,1,1-トリクロロエタン	表面処理(アルプラス処理)	○	○
5	雑種地、道路、用水路	駐車場	24,241	—	旧田(航空写真)	×	○
21	用水路	暗渠	45	セレン、六価クロム、1,1,1-トリクロロエタン	工場排水専用	△	△
22	公衆用道路	道路	913	—	田→道路(航空写真)	×	○
6	宅地	工場	52,197	鉛、1,1,1-トリクロロエタン	ハンダ	○	○
7	雑種地	駐車場	1,097	—	田→駐車場(航空写真)	×	○
34	雑種地	緑地	3,223	—	旧田(航空写真)	×	○
37	宅地	畑	1,869	—	旧田(航空写真)	×	○
	雑種地	畑	77	—	旧田(航空写真)	×	○
40	田	更地	492	—	旧田(航空写真)	×	○
8	宅地、水路他	工場	101,034	シアン、六価クロム、銅、トリクロロエチレン テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン	メッキ、塗装、表面処理 ボールチェーン、アルミ伸線	○	○
	雑種地	駐車場	3,302	—	—	×	○
	宅地	駐車場	481	—	—	×	○
14	宅地、用悪水路	社員寮	5,977	—	旧青雲寮	×	○
15	宅地	駐車場	965	—	旧田	×	○
9	宅地	工場	186,881	ジクロロメタン、1,1,1-トリクロロエタン カドミウム、鉛	塗装	○	○
17	宅地	宅地	1,184	—	—	×	○
23	雑種地	掘り抜き井戸	1,394	—	線路→道路	×	○
24	雑種地	道路	9,436	—	社宅→駐車場	×	○
25	雑種地	駐車場	5,072	—	従前より道路	×	○
26	公衆用道路	道路	313	—	—	×	○
35	雑種地	更地	2,126	—	—	×	○
36	山林	畑	16	—	—	×	○
	宅地	旧製塩工場ポンプ小屋	91	—	旧田(記憶)	×	○
10	宅地	工場	337,151	—	旧田	×	○
12	宅地	社員寮	5,709	—	旧田	×	○
13	宅地	社員寮	19,974	—	旧田	×	○
16	宅地	社宅・社員寮	37,213	—	—	×	○
27	宅地、雑種地、山林	安定型処分場、松林、緑地	19,497	—	—	×	○
28	宅地、雑種地、山林	資材置場、 リサイクル施設他	72,313	—	旧メッキスラッジ 染色スラッジ置場	△	○
31	宅地	スタンド、整備工場	85	—	—	△	△
	用水路		3	—	—	△	△
32	宅地	給食センター	3,029	—	旧田	×	○
38	田	田	1,703	—	旧田(航空写真)	×	○
41	田	休耕中	259	—	旧田(航空写真)	×	○
45	宅地	工場、 一部更地	549,890	トリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン ジクロロメタン	ウレタン注入、出窓 染色	○	○
46	宅地	寮	17,077	—	旧田(記憶)	×	○
	宅地、雑種地	車庫、宅地	11,364	—	外注調査	×	○
	宅地	工場	33,880	—	工場長確認	×	○

土壌調査の必要性:○調査必要 △調査の必要可能性あり ×調査の必要性なし
 評価:○問題なし △未調査

YKKグループ国内主要工場と海外ISO14001認証取得済み工場

	土地面積 (千m ²)	延べ床面積 (千m ²)	事業内容	従業員数 (人)	
日本	YKK 黒部工場	718	551	ファスナー、T&P製造、精密機械・金型製造	3,154
	YKK 黒部牧野工場	104	53	ファスナー用金属材料製造	206
	YKKスナップファスナー(株)上尾工場	12	11	S&B製造	192
	YKK AP 黒部素材製造所	299	263	建材用アルミ形材製造	931
	YKK AP 黒部越湖製造所	221	154	建材用部品製造	724
	YKK AP 黒部荻生製造所	337	126	建材製品加工・組立	597
	YKK AP 滑川製造所	667	195	建材製品加工・組立	815
	YKK AP 東北製造所	729	369	建材製品製造	1,391
	YKK AP 四国製造所	330	180	建材製品製造	898
YKK AP 九州製造所	340	205	建材製品製造	905	
北中米	YKK U.S.A.社	1,226	223	ファスナー、S&B、T&P製造	775
	YKKカナダ社	57	29	ファスナー、S&B製造	151
	YKK APアメリカ社	838	72	アルミ建材製造	352
南米	YKKブラジル社	247	52	ファスナー、S&B、T&P製造	474
	YKKアルゼンチン社	40	8	ファスナー製造	84
東アジア	上海YKKジッパー社	106	97	ファスナー製造	1,260
	YKK香港社	14	143	ファスナー製造	588
	大連YKKジッパー社	147	101	ファスナー製造	1,040
	YKK台湾社(ファスナー)	79	122	ファスナー製造	887
	YKK韓国社	45	48	ファスナー製造	271
	YKK深圳社	105	104	ファスナー製造	1,300
	YKKスナップ・ファスナーズ・アジア社	16	17	S&B製造	346
	大連YKK AP社	60	34	樹脂建材製造	250
	YKK台湾社(AP事業部)	12	7	アルミ建材設計・施工	92
YKK AP深圳社	112	36	アルミ建材製造	411	
ASEAN、 南アジア、 オセアニア	YKKインドネシア社	84	33	ファスナー、S&B、T&P製造	800
	YKKインドネシア社PPD工場	55	125	ファスナー用繊維材料製造	520
	YKKジプコ・インドネシア社	159	76	ファスナーおよびファスナー用部品製造	722
	YKKシンガポール社	14	12	ファスナー製造	184
	YKKタイ社	146	30	ファスナー、S&B製造	424
	YKKフィリピン社	60	12	ファスナー製造	206
	YKKベトナム社	58	17	ファスナー製造	324
	YKKインド社	105	29	ファスナー製造	347
	YKKスリランカ社	31	9	ファスナー製造	160
	YKKバングラデシュ社	50	25	ファスナー製造	474
	YKK APインドネシア社	182	74	アルミ建材製造	808
YKK APシンガポール社	14	10	アルミ建材設計・施工	76	
ヨーロッパ、 中東、 アフリカ	YKK英国社	74	38	ファスナー製造	101
	YKKシュトゥット・ファスナーズ社	49	23	S&B製造	265
	ダイナート社	2	2	ファスナー製造	26
	YKKドイツ社	56	20	ファスナー製造	172
	YKKフランス社	62	26	ファスナー製造	252
	YKKイタリア社	137	42	ファスナー製造	260
	YKKスペイン社	65	40	ファスナー製造	244
	YKKギリシャ社	30	3	ファスナー製造	35
	YKKトルコ社	67	38	ファスナー、S&B製造	330
	YKKエジプト社	17	6	ファスナー製造	70
	YKKサザン・アフリカ社	33	18	ファスナー、S&B製造	211
	YKKポルトガル社	20	5	ファスナー製造	66
	YKKベルギー社	21	4	ファスナー製造	34
	ニュージッパー社	1	1	ファスナー製造	31
	YKKオランダ社	24	7	ファスナー製造	46
	YKKファスナーズ社	15	6	ファスナー製造	54
YKKメディテラネオ社	50	25	ファスナー部品製造	171	

S&B製造:スナップ、ボタン、リベットなどの金属製品製造
T&P製造:面ファスナー、繊維テープ、バックルなどの樹脂製品製造

サイト別環境負荷情報

(2004年度実績)

電力 (千Kwh)	熱量換算 (GJ)	CO ₂ (t)	総排出量 (t)	再資源化量 (t)	再資源化率 (%)	紙使用量 (t)	水使用量 (千m ³)	排水の 放流先	漏洩、 流出事故
95,743	222,315	51,038	9,901	9,772	99	50.8	2,409	河川	なし
38,799	33,026	16,800	563	533	95	1.8	757	河川	なし
4,464	29	1,685	181	96	53	6.0	30	河川	なし
96,648	437,286	65,860	18,658	18,308	98	16.5	7,598	河川	なし
30,439	37,598	14,043	672	570	85	10.8	732	海	なし
14,568	20,268	6,868	348	348	100	27.4	239	河川	なし
15,120	32,575	7,859	3,907	3,532	90	32.4	325	河川	なし
82,664	273,818	49,920	19,076	18,836	99	21.0	3,601	河川	なし
35,538	429,036	42,933	13,290	13,290	100	19.0	1,422	海	なし
35,490	547,143	51,104	14,980	14,943	100	17.0	2,100	海	なし
114,625	159,309	51,182	2,648	1,503	57	13.0	722	下水道	なし
7,896	31,231	4,520	242	147	61	2.7	72	下水道	なし
27,088	145,537	17,402	2,286	1,782	78	8.5	246	下水道	なし
15,870	60,763	9,255	665	248	37	5.5	212	河川	なし
1,190	9,505	918	46	18	39	0.7	30	河川	なし
20,077	62,446	11,859	1,156	1,127	97	30.5	546	下水道	なし
14,382	47,044	8,600	626	356	57	18.4	228	下水道	なし
19,650	22,116	8,924	256	189	74	13.6	375	下水道	なし
66,696	120,200	33,724	3,506	1,945	55	32.2	1,208	河川	なし
10,021	29,647	5,481	522	146	28	5.4	112	河川	なし
29,728	158,460	22,054	2,043	2,030	99	11.2	591	河川	なし
3,300	14,012	2,207	—	—	—	0.4	84	河川	なし
5,354	1,653	2,126	1,166	987	85	2.2	33	下水道	なし
516	0	195	39	20	51	0.6	2	河川	なし
16,620	72,224	10,585	2,178	1,565	72	3.9	315	河川	なし
13,688	95,263	10,250	186	7	4	5.4	413	河川	なし
30,470	283,482	29,014	228	0	0	2.6	251	河川	なし
32,626	109,332	18,617	197	6	3	3.6	228	河川	なし
4,335	11,484	2,332	168	102	61	2.3	69	下水道	なし
7,547	14,627	3,853	120	116	97	5.7	131	海	なし
2,667	13,219	1,944	108	57	53	4.4	73	河川	なし
4,960	20,606	3,298	82	68	84	5.5	133	下水道	なし
(8,584)	126,073	8,653	312	179	57	2.2	237	下水道	なし
2,074	9,770	1,457	15	9	62	1.2	37	下水道	なし
4,136	64,590	5,986	56	21	37	5.7	126	下水道	なし
26,016	149,867	17,211	1,611	1,566	97	3.9	273	河川	なし
506	0	191	—	—	—	3.0	6	下水道	なし
4,961	45,838	5,149	342	79	23	3.1	85	下水道	なし
3,838	244,902	14,047	348	233	67	8.1	35	下水道	なし
193	0	73	8	1	15	0.1	—	下水道	なし
3,812	30,939	2,966	179	179	100	3.3	82	下水道	なし
2,993	31,779	2,698	173	39	23	3.5	50	下水道	なし
8,953	131,960	9,894	267	258	97	—	331	河川	なし
9,781	23,983	4,896	627	303	48	6.7	120	河川	なし
528	3,994	438	1	1	91	0.1	2	下水・地中	なし
5,687	38,413	4,054	78	57	73	4.1	232	下水道	なし
1,977	7,400	1,111	7	7	100	—	58	下水道	なし
3,470	16,352	2,740	48	45	93	2.2	51	下水道	なし
751	3,763	469	31	16	50	1.1	22	河川・下水道	なし
165	1,375	157	35	0	0	2.0	0	下水道	なし
205	23	78	2	1	50	0.1	3	下水道	なし
427	5,144	415	31	17	55	0.8	5	下水道	なし
1,845	4,932	949	314	266	85	1.0	21	河川	なし
11,077	50,060	6,744	1,354	1,183	87	2.7	82	下水道	なし

YKKインド社の電力はすべて自家発電でまかなっているため電力量は発電量を参考として記述しています。
構外への漏洩・流出事故はありませんでした。

YKKグループの環境・社会への取り組みについての第三者意見

経営の基本姿勢について: 今日関心をもたれているCSRは、グローバル化する経済活動の視点が必須になっています。YKKグループは早くから国際化を展開しており、創業時からの基本として各地域でとことん「現地主義」を実践してきたことが、現在のCSRに通づるといえます。その成果は各地での評価や表彰で示されており、特に雇用を最重要視する北米・欧州で長年評価されてきていることが優れた姿勢であるといえます。

昨今の課題としては、「善の巡環」や経営理念が一般的な標語になってしまい、現在の若い世代や世界各国で同じ考えで徹底できているか、というところにあると思います。またYKKグループをファスニング事業、工機事業、そして建材事業を事業カンパニーとして、自立的な経営組織に編成したところであり、この様な分社の形態であってもYKKグループとしての基本精神は、生き続けることが重要です。今後はそれぞれの異なる事業特性と活力を維持しつつ、グループとしての一体感が求められます。その一体感を引き出すには、グローバルな流れのなかでのCSRを取り込むことがひとつの方策ともいえます。

環境・社会報告書2005について: 環境・社会報告書の発行も、毎年版を重ねるごとに内容の改善が図られています。今年の報告書では、グローバルな視点を意識して海外事業の記載を増やしている努力が伺えます。特に社会貢献での海外の数々の活動紹介にウェイトが置かれており、また環境への取り組みについても海外の事例紹介があり、国内とともに全世界で根付くための努力がここから読み取れます。このほかに、社会活動の報告として割かれている記述として、商品・サービスを通して社会に貢献するという考え方も必要な視点で、この紹介もわかりやすいと感じます。

一方、今後YKKグループのCSR活動を体系的に報告するうえで、下記の点を改善することでより充実した内容になるものと考えます。

・YKKグループ独自の従業員とのかかわりの視点

株式を公開していないYKKグループにとって、従業員は株主でもあることが大きな特徴です。単に持ち株を分配するだけでなく、経営への参画意識を強く持ってもらうという姿勢が強く、経営の実績を社員に徹底的に公開し経営陣と一体となって事業について語るという取り組みは、YKKグループならではの努力であると感じました。この最も重要なステークホルダーは会社の事業戦略を担うコア戦力であり、そのための社員への配慮は、人事面や安全衛生の整備を超えるものがあります。こうした考えが伝わってくる報告を、今後期待いたします。



田家委員長へのインタビュー風景

・地域活動についての体系的な報告

今回の報告では世界での社会貢献の事例が紹介されていますが、これだけでは活動の結果だけになってしまいます。YKKグループとして、どのような方針で世界各地域で現地主義を実践しそれを統括しているのか、その内容や体制がほしいところです。

・主要2事業の戦略と環境・社会活動の関連

現時点では、異なる主要2事業での環境・社会への取り組みについて、両者の報告の棲み分けと共通部分がわかりにくいと感じます。これは今後の課題として検討中ということですが、外部の読者に対して、YKKグループの事業と環境・社会の取り組みの関係が理解しやすい報告に整理していくことが望まれます。

グローバルそして国内戦略いずれにおいても、環境やCSRの観点は無視できない課題です。今後とも、一歩ずつ取り組みを積み上げていけることを期待いたします。

海野みづえ

株式会社 創コンサルティング
代表取締役 海野みづえ

海野みづえ氏のプロフィール

千葉大学大学院修了後、経営コンサルティング会社勤務を経て、1996年(株)創コンサルティングを設立。
 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 非常勤講師
 法政大学大学院環境マネジメント研究科 非常勤講師
 CSR マネジメント推進フォーラム テクニカルアドバイザー
 環境プランニング学会 理事

YKK株式会社

■創業	1934(昭和9)年1月1日
■資本金	119億2,271万円
■従業員	3,396名 ※2004年12月末現在
■製造品目	ファスニング製品、精密機械・装置・金型
■本社	〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1 TEL 03-3864-2000
■工場	黒部工場、黒部牧野工場



ファスニング事業:服・カバンなどに使われるファスナー・ボタン・テープなどに加え、さまざまなファスニング商品をご提供しています。その用途は衣料品だけでなく、靴や寝具、医療分野、産業資材と多岐にわたります。

工機事業:YKKグループの要素技術や研究開発を要として、長年つちかかった技術とノウハウを結集し、独自の生産機械、システム、金型などを世界各地のグループ工場へ提供しています。

YKK AP株式会社

■創業	1957(昭和32)年7月22日
■資本金	100億円
■従業員	12,352名 ※2004年12月末現在
■製造品目	建材製品
■本社	〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1 TEL 03-3864-2200
■工場	東北製造所、黒部素材製造所、黒部越湖製造所、黒部荻生製造所、滑川製造所、四国製造所、九州製造所



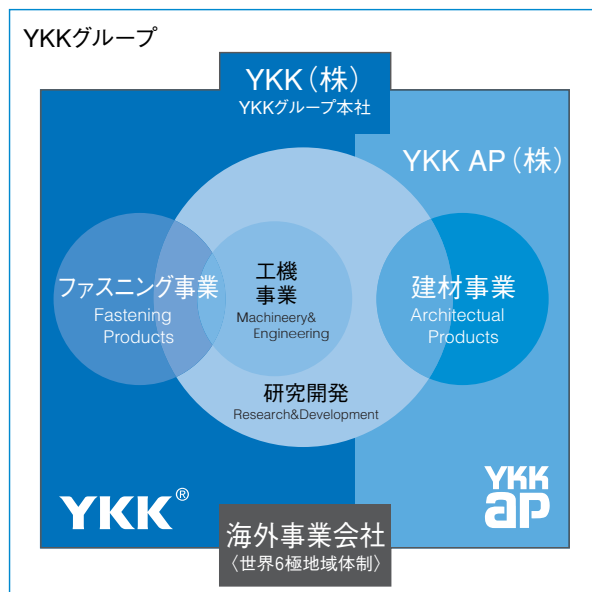
住宅建材事業:より快適な暮らし、新しい暮らしのための住宅を目指し、ドア・サッシからエクステリア、外装建材まで、アルミはもちろん木質系素材や樹脂などをベースに、基本性能をプラス、色やデザインの豊富なバリエーションと機能性を追及したさまざまな商品をお届けしています。また、バリアフリー、断熱環境、リサイクルなどの新しい次元のニーズにも的確にお応えしています。

ビル建材事業:独自の一貫生産システムとグローバルな展開と数々のビッグプロジェクトでつちかかってきた豊富なノウハウを活かし、超高層ビルから中・低層ビルまで、コンポーネントの開発から製造、施工、アフターサービスまで、しっかりとサポートしています。

YKKグループ

- グループ会社 世界 70 カ国/地域 123 社
 - 1) YKK(株)・その他のグループ会社 18 社
 - 2) YKK APグループ 7 社
 - 3) 海外98社 (93工場など計298拠点)
- 従業員 37,717名 (国内17,651名 海外20,066名)

※ 2004年12月末現在





みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

YKKグループは、チーム・マイナス6%に参加しています



YKKグループ

YKK株式会社／YKK AP株式会社

〒101-8642 東京都千代田区神田和泉町1
URL <http://www.ykk.co.jp>

〈お問い合わせ先〉
YKK株式会社 環境グループ
〒938-8601 富山県黒部市吉田200
TEL:0765(54)8160 FAX:0765(54)8149
E-mail:kankyo@ykk.co.jp

発行:YKKグループ 環境協議会 2005年7月



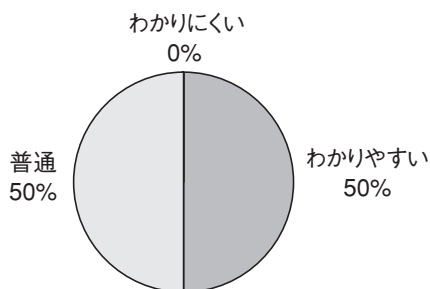
[認定番号K0301107]



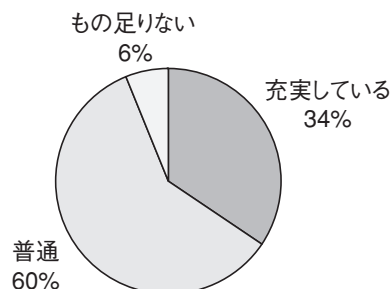
「環境・社会報告書2004」へのご意見・アンケート結果

2005年3月現在、32件のご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

<わかりやすさ>



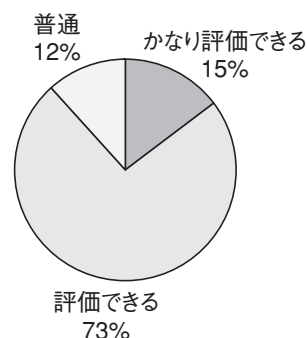
<記述内容>



<興味をもたれた項目> (上位3項目)

- ・ 社会とのかかわり
- ・ 環境配慮型商品開発の理念
- ・ ゼロ・エミッションへの取り組み

<活動に対する評価>



<いただいた主なご意見・ご提案>

- ・ YKKグループの理念が明確に示されているように見受けられた
- ・ 具体的な取り組みが印象的
- ・ 硬いイメージ。もう少しやさしく表現してほしい
- ・ 社会性報告は、客観的な数値データが乏しい
- ・ ステイクホルダーミーティングを実施してほしい

<今回の報告書で反映した点・課題点>

- ・ グローバルな活動を理解していただけるよう、海外の事例を多く記載
- ・ データ編に人事・労務、潜在リスクなどの情報を公開
- ・ ステイクホルダーミーティングの開催を検討します

YKKグループは、この添付アンケートを皆様との重要なコミュニケーションの一つと位置づけています。

今後も忌憚のないご意見・ご提案をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

YKKグループ 環境協議会

「YKKグループ環境・社会報告書2005」へのご意見・ご感想をお寄せください。

FAX：0765-54-8149 YKK株式会社 環境グループ

Q1 この報告書をお読みになって、どのように感じられましたか？

1) わかりやすさ

- ① わかりやすい ② 普通 ③ わかりにくい

理由

2) 報告書の記載内容

- ① 充実している ② 普通 ③ もの足りない

理由

3) 報告書の内容のうち、特に興味をもたれた項目はございますか？

() ページ (項目:)

理由

4) YKKグループの環境・社会活動について、どのように評価されますか？

- ① かなり評価できる ② 評価できる ③ 普通 ④ あまり評価できない ⑤ 評価できない

理由

5) 報告書や環境・社会活動についてのご意見・ご感想などございましたらご記入ください。

ご意見・ご感想

Q2 この報告書をどのような立場でお読みになられていますか？

- ① お客様 ② お取引先 ③ 政府、行政関係 ④ 環境NGO ⑤ 報道関係 ⑥ 企業の環境担当者
⑦ 学生 ⑧ YKKグループ会社が立地する地域の方 ⑨ 金融・投資関係
⑩ その他 (具体的に:)

Q3 この報告書をどのようにお知りになりましたか？

- ① 新聞・雑誌 ② ホームページ ③ 展示会 ④ YKKの営業担当者
⑤ その他 (具体的に:)

ご協力ありがとうございました。

「2006年度環境・社会報告書」(2006年7月発行予定)をご希望の方は、送付先をご記入ください。
このアンケートより取得した個人情報、その利用を報告書の送付に限定した上で、万全の管理を行っています。

ご住所: 〒 _____

お名前: _____